熊谷スマートシティ

コミュニティラボ 1周年記念シンポジウム

～デジタルと人の力で、「産業・イノベーション」と 「市民共創・市民協働」～

KUMAGAYA SMARTCITY

開会挨拶

KUMAGAYA SMARTCITY

お祝いのメッセージ

KUMAGAYA SMARTCITY

市長挨拶

KUMAGAYA SMARTCITY

コミュニティラボ
現状報告

KUMAGAYA SMARTCITY

１　コミュニティラボの現在までの取組紹介

⓪コミュニティラボ　キックオフ

①【その他、コミュニティラボを活用した取組み（主に企画・編集ワークスペースを活用）】

・　「立正大学×「クマポ」プロジェクト」について
・熊谷市「スマートシティ部高校生版」の設定調整（ロボ活）
・熊谷市「スマートシティ部高校生版」の設定調整（デジ活）
・シーンスケッチコンテストの方針の設定調整
・クマぶらを活用したゲーム性のあるまち歩き促進策の調整（ポイントゲーム）

「コミュニティラボとは」



やさしい未来発見都市の成長サイクル



熊谷スマートシティとしてのキーワード
『やさしい未来発見都市』『デジタルと人の力で、社会を前に進めていく』





市民協働・居場所

コミュニティ

＋



創造の場・実験室

ラボ



地域社会の市民が集まり、学び、対話することによって、
つながりを生む出会いの場が **“<u>コミュニティラボ</u>”** です。

コミュニティラボとは

●Web上に置く「クラウドラボ」と、まちなかに置く「リアルラボ」を予定しています。
（リアルラボは当面不定期です。）



いつでもどこでもだれとでも
つながる





人のつながり（コミュニティ）を活かした、誰もが夢を実現できるまちに向かうための実験室（ラボ）として名づけました。

公民連携による
デジタル技術と人の力
⇨**新しい暮らし・産業**

どんな場所になるのか

ラボは、関係団体・市役所が期待する役割を果たすために、以下の２つの機能を重視した場所として設定される。

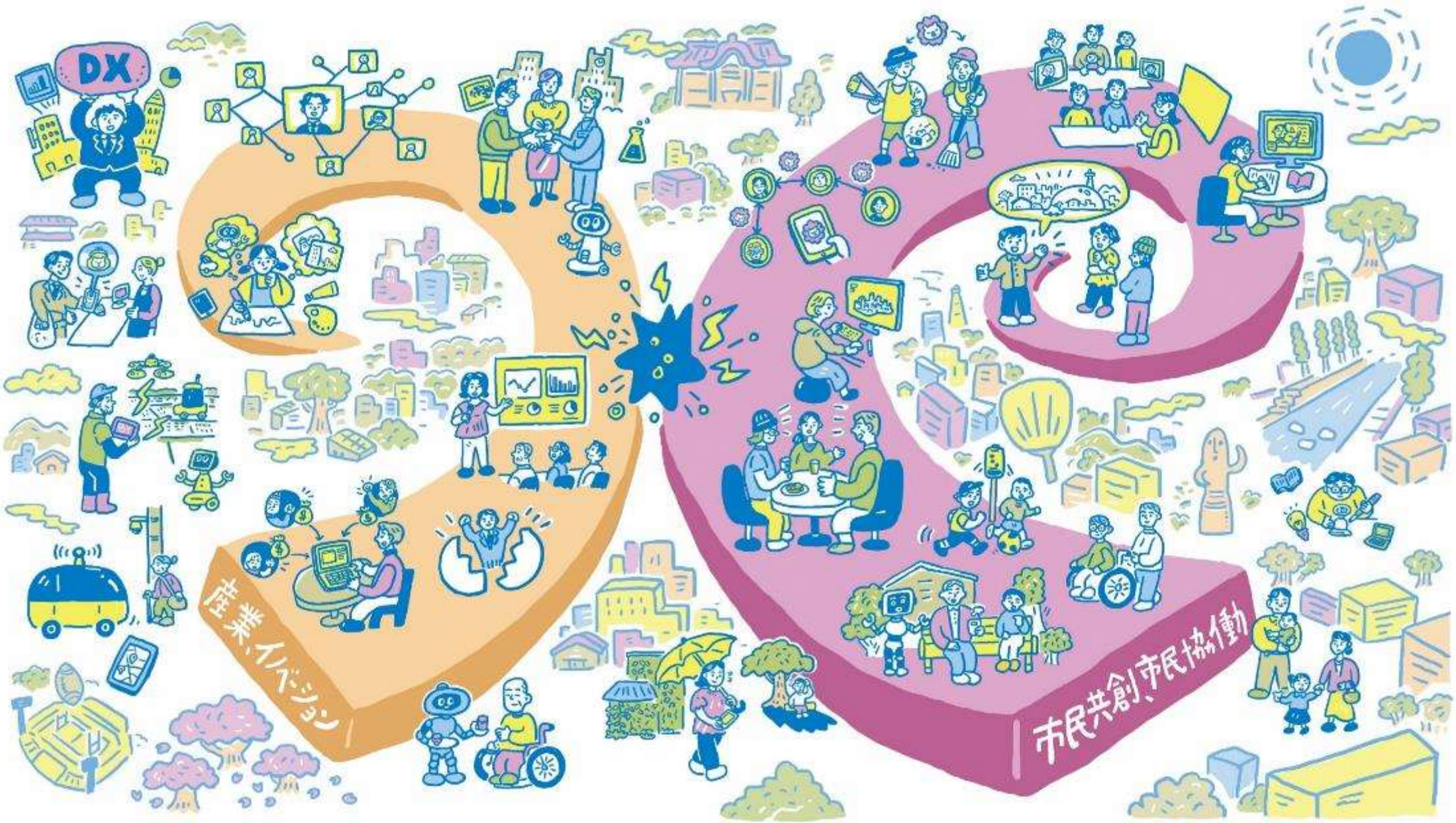
共に創る場

- 市民共創型PF（３DGIS（公表済み）、まちづくり合意形成（R6年度実装）等）と共に、熊谷市の理念・目的の実現に向かう支えとしてのラボ。

共に考える場

- デジタルを導入することで、市民が自ら楽しみ、発信することのできる場を生み、人口ビジョン・総合戦略にも貢献するラボ。




DX
産業イノベーション
市民共創、市民協働

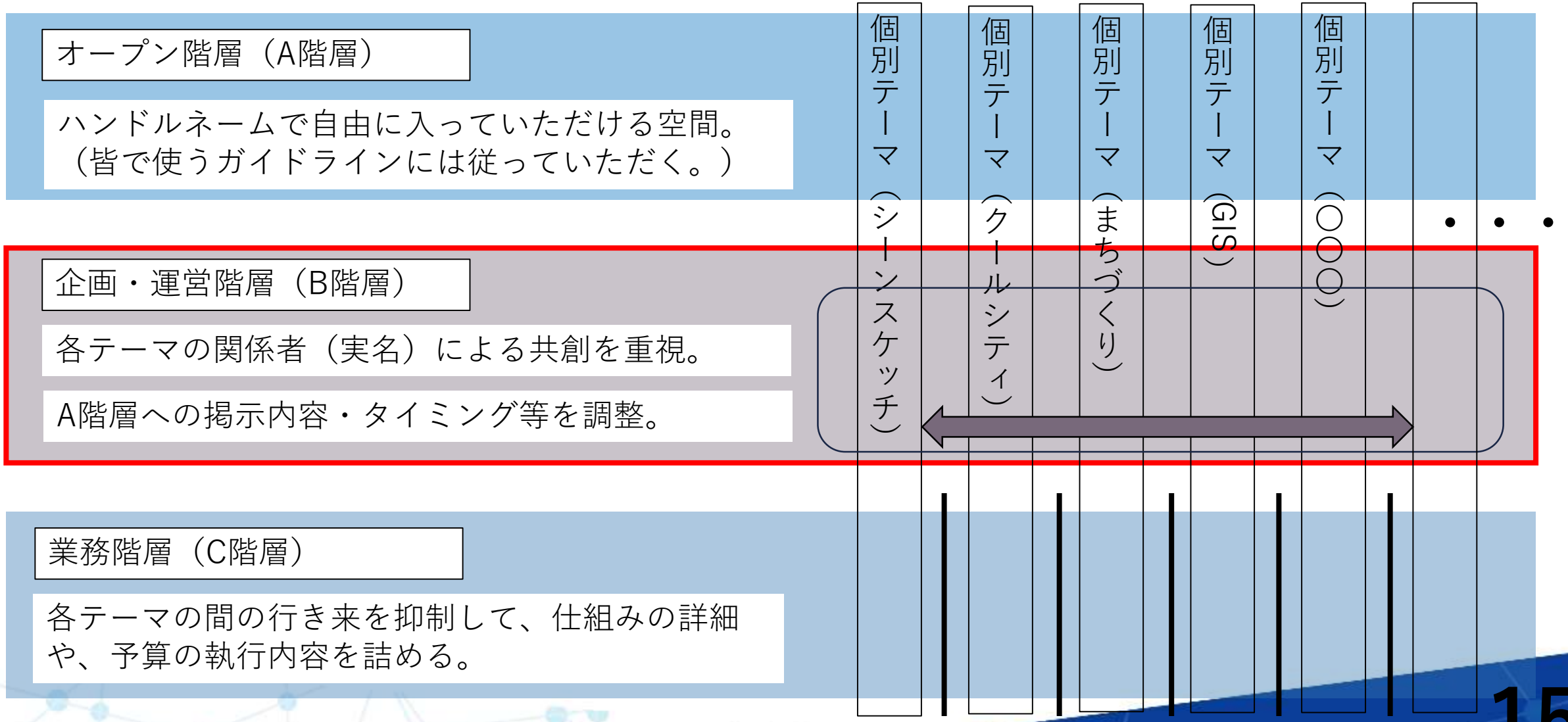
１　コミュニティラボの現在までの取組紹介

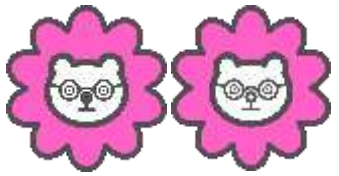
⓪コミュニティラボ　キックオフ

①【その他、コミュニティラボを活用した取組み（主に企画・編集ワークスペースを活用）】

-1 「立正大学×「クマポ」プロジェクト」について
-2　熊谷市「スマートシティ部高校生版」の設定調整（ロボ活）
-3　熊谷市「スマートシティ部高校生版」の設定調整（デジ活）
-4　シーンスケッチコンテストの方針の設定調整
-5　クマぶらを活用したゲーム性のあるまち歩き促進策の調整（ポイントゲーム）

【参考】熊谷コミュニティラボ　企画・運営階層（通称「B階層」）の位置づけ





「立正大学×「クマポ」プロジェクト」について

（目的）
学生、若い世代の地域活動への参加促進にコミュニティポイント（クマポ）を活かす

（活動案）
1　若い世代への地域活動参加促進。
2　その他、目的を達成するために必要な活動



今年度実施する予定のクマポの取組です。
取組について対象者を立正大学学生に限っているわけではありませんので、ぜひご参加ください。

熊谷市「高校生スマートシティ部」の「ロボ活」企画（実施中）

参加者募集！

未来の熊谷を、君たちの手でデザインしよう！

熊谷市では、高校と連携して、次世代を担う高校生の皆さんと共により良いスマートシティの実現を目指す「新しいカタチ」として、**“(仮称)熊谷市「スマートシティ」部”**を準備しています。

皆さんにスマートシティへの理解を深めていただき、社会で活躍するための力を育むことを目指して、専門家との意見交換などを用意しています。
活動の中で皆さんにご提案いただいた内容については、積極的に熊谷スマートシティの仕組みを活用した実現を図っていきます！

近い将来、私たちの仕事や生活を支える新しい技術に興味がある方を募集します！知識の有無などは問いません。私たちと一緒に熊谷市ならではの未来の街づくりに関わってみませんか？



応募要項

○募集対象：熊谷工業高校生
○募集人数：10名（5名×2チーム）
○求める人物像：
- 地域や社会の課題に関心がある方
- 新しい技術やモノづくりに興味がある方
- チームワークを大切にできる方
- 主体的に活動に取り組める方

○参加費：無料（活動に必要な費用は原則として市が負担します）

申込HP

https://forms.gle/6iTo38bev9fhjx1bA

Smart City Robots

2025年度のテーマ：「ロボ活！」
熊谷のまちにもっとロボットを差し込もう！

【1】チュートリアル（既にご予定の案がっている方に向けては9月以降に改めて機会を調整予定です。）
①（第一回）
・日程：8月10日(日)13:00-16:00
・場所：さいしんホール（市主催のコミュニティラボ1周年シンポジウムにて、特別席を準備）
・説明者：スマートシティの取組について（副市長）ほか
②（第二回）
・日程：8月30日(土)13:00-16:00
・場所：鎌化センター（中央公園内）（市主催のロボットシンポジウムにて、特別席を準備）
・説明者：ロボットビジネス支援機構　専務理事（伊藤デイビット氏）
【テーマ】スマートシティとロボットの今後の社会的役割、具体の分野での活用可能性等

【2】第一部【都市編】として、ロボット同士のデータ連携、ロボット同士や人間との協働運用について知る。
主な連携先：ロビジー・SHITARA他
①（第三回）
・日程：9月中旬
・場所：未定（市内を予定）
・説明者：ロボティクスインテグレーター事業者（ロボットビジネス支援機構　会員）
【テーマ】ロボット同士のデータ連携、ロボット同士や人間との協働運用について
②（第四回）
・日程：10月中旬
・場所・説明者：調整中

【3】第二部【体験編】として、ハード・ソフトを一体的にロボットを理解する。
主な連携先：ものつくり大学様・市内関係者
①（第五回）
・日程：調整中（12月、2月中下旬、3月初旬）
・場所・説明者：調整中
②（第六回）
・日程：調整中（12月、2月中下旬、3月初旬）
・場所・説明者：調整中



熊谷市「高校生スマートシティ部」の「デジ活」企画（検討中）

熊谷市「スマートシティ部」高校生版を、熊谷商業高校の授業カリキュラムに組み込んで実施する案を企画中です。

〇スマートシティ高校生版（デジ活）@熊谷商業高校

案

３回ワンセット　１回目：最初３０分説明　２０分質疑応答・フリートーク

・・・以下の日程（案）で、担当職員が来校し説明を実施する

２回目：資料を基にグループワーク（テーマ案は検討）・・・校内で実施

３回目：お互いに発表しつつ意見交換・・・校内で実施

【オープニング】9/11
①　熊谷スマートシティの概要
②　【１】～【８】の全体の流れについて。
【１】9/22　まちづくりと交通・自動運転の可能性
【２】9/29　気象データ・シミュレーションの活用とGISの重ね合わせ
【３】10/6　行政のデジタルデータ活用・オープンデータの活用

熊谷市「高校生スマートシティ部」の「デジ活」企画（検討中）

【中間ゲストトーク】
①ゲーム空間データ　関連企業に協力依頼予定
②３D都市モデル（リアース）
【４】**11/5**　（２回）Web上のコモンスペースでの共創（コミュニティラボ）
【５】**11/10**　デジタル地域通貨の可能性（クマポ）
【６】**11/17**　ロボットとあなたが作る明日の風景　（都市空間データ関係）（個体関係）
【７】**11/26**　AI画像・AI音声の活用とゲームで拓くまちづくり
【８】**1/14**　AIオンデマンド交通のシステムと持続可能な交通

【クロージング】今年度の感想など。

※秋のデジタルインターンのためのチャンネル（コミラボA（メイン）・B（下話）階層）を増やす。タウンマネジメント活動証明書も発行。

KUMAGAYA SMARTCITY

シーンスケッチコンテストの方針の設定調整

３回目となる今回のコンテストの狙いやテーマ等のポイントについて、募集開始前の企画段階からコミュニティラボで意見の募集を行った。
審査員を依頼するアーキテクト等の外部関係者や庁内職員に向けて、周知広報におけるアイデア出しや、事業化検討の流れについて相談し、コンテスト実施概要について固めていった。

コミュニティラボ企画「未来スケッチのアトリエ」チャンネル

https://www.city.kumagaya.lg.jp/smartcity/kouminrenkei/sketch/index.html
@深田　雅之 @酒井学雄 @大島英司（熊谷市役所） @市原 倫子（政策調査課）

黒田（政策調査課） 10:41
【ご意見をお聞かせください】
令和７年度　熊谷スマートシティ　シーンスケッチコンテストについて

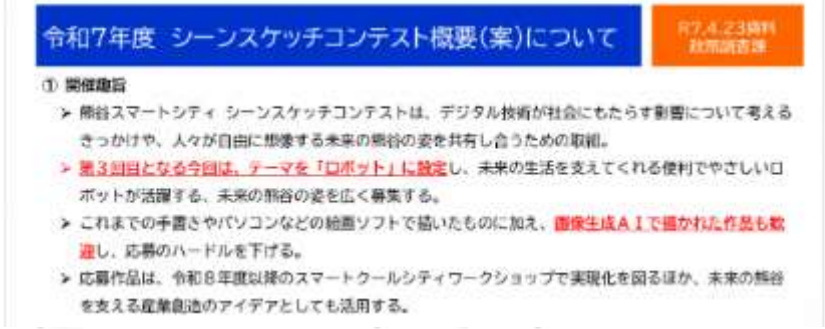
熊谷スマートシティでは、今後デジタル技術を活用する中で、どのような未来が理想的か、楽し
民の皆さまとともに考えるきっかけづくりや、市の取組の参考とするため、令和５年度から熊谷市
今回、募集開始を前に、コミュニティラボに参加いただいている皆さまに、今年度のシーンスケ
の作品と産業化へのアイデアが集まるよう、本日から５月１６日まで、ご意見をいただきたいと考

第３回目となる今回のポイントと考えていることは以下のとおりです。

- テーマを「ロボット（ドローン含む）」に設定し、未来の生活を支えてくれる便利でやさしいロ
  集します。
- これまでの手書きやパソコンの絵画ソフトに加え、画像生成AIで描かれた作品も歓迎し、応募
- 最優秀賞・優秀賞等の作品は、令和８年度以降のスマートクールシティワークショップで実現
  続的検討のアイデアとして活用します。

PDF

R7シーンスケッチコンテスト（コミュニティラボ...
PDF



KUMAGAYA SMARTCITY

シーンスケッチコンテストの方針の設定調整

未来の熊谷のまちづくりや新たな産業化等の取組につながる「シーンスケッチコンテスト」は、若者からの応募も歓迎しているため、校長会での広報や中学生生徒会訪問等を実施し、熊谷スマートシティの取組について直接対話する機会を設けている。また、小中学生の応募促進のため、教職員向け「画像生成AI活用研修」を、コミュニティラボでの意見を活かしながら実施している。

コミュニティラボ企画「未来スケッチのアトリエ」チャンネル

黒田（政策調査課） 12:59

【令和７年度 第３回 シーンスケッチコンテスト】市内中学校の生徒会を訪問してきました！

熊谷スマートシティの取組や、今回のシーンスケッチコンテストについて説明するため、
別府中・吉岡中の生徒会を、大島副市長と訪問してきました。
当日は、生徒の皆さんが色々なアイデアを発表してくれました🤖

ロボット技術やデジタル技術を活用した未来の熊谷市が、どのように変わっているか、
あるいはどんな風になったら便利か、楽しいか、うれしいか、幸せを感じるか…, etc.
若い皆さんが、自由に想像を巡らせて、ワクワクする"未来の熊谷市の企画書"を、
シーンスケッチとして描いて応募してくださるとうれしいです！（10月末〆切）
※９月にも２校訪問予定なので、またご報告します🍀

@大島英司（熊谷市役所） @市原 倫子（政策調査課） @小田嶋 俊（政策調査課） @赤沼（政策調査課） @齋藤





笛木翔吾（都市計画課） 08:49　5月14日 (水)

このスレッドに返信しました：**【ご意見をお聞かせください】**…

@黒田（政策調査課）

①画像生成AI賛成です！
著作権の扱いなど、もしかしたら不安に思う先生がいらっしゃるかもしれないので、「画像生成AI活用の意見交換会」で使った資料のような補足があるとより安心かなと思いました。

クマぶらを活用したゲーム性のあるまち歩き促進策（星川まちログGO！）の企画・調整について

星川まちログGO！ とは？

市の公式LINEアプリである「クマぶら」内の機能を活用して、ゲーム性を持たせつつ、まち歩きを促進しながら、まちなかの多様な交通手段についても知っていただこうという企画（9/1実装予定）

コミラボ活用の特色

これまでの施策に比べて、初期の段階（企画の提案段階）から、コミュニティラボの企画・運営階層である【B階層】の中で調整を始めた点

施策の存在を早い段階からコミラボ関係者に広く知ってもらうことで、

- **他の施策と絡めたアイデアを募集する**
- **他の施策にも活用できる部分があれば是非していただく**
- **何なら負担の許す範囲で手伝っていただける方を探してみる**

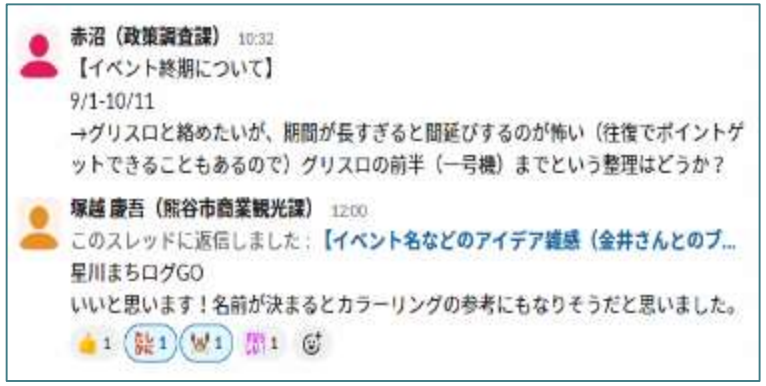
などのことを狙い、B階層で提案をスタートしました。

その結果・・・

同時期に配布予定の「まち歩きマップ」（紙媒体）との連携を図ったり。。。



グリーンスローモビリティの実証実験まで期間を延ばしてミッションを追加したり、イベント名を募集したり。。。



ゲームの素材に使う写真の収集を手伝ってもらったり、ウォークスルーに参加してもらったりできました！



講演

KUMAGAYA SMARTCITY

パネルディスカッション

KUMAGAYA SMARTCITY

質疑応答

KUMAGAYA SMARTCITY

休憩（10分）

KUMAGAYA SMARTCITY

熊谷市スマートシティ部
高校生版について

KUMAGAYA SMARTCITY

熊谷市スマートシティの産業・人材・人口移動への新しい解づくりに向けて

副市長　大島　英司

KUMAGAYA SMARTCITY

熊谷スマートシティは公民連携で地域を持続させるツール（自治体DXとの分担）



【凡例】
- 重視するモード・マインドセット
- トータルブランディング方針に定めた３つのコンセプト
- 主な手法・システム等

新産業等の可能性共創

【持続性】

人材像・ビジネス像

シーンスケッチ

【ストーリー】

クールシティ

ロボくま

【コミュニティ】

コミュニティラボ





クマポ・
クマポプレイス

素早い仮説・試行の重視

既存アセット活用・暫定利用によるまちなか再生

市民の安心・共感の重視

スマートシティの各ステージの迅速な積み上げロードマップ

ペースを落とすことなく共創により新時代産業確保・社会課題解決を目指すステージへ

民間・応用

公共・基盤

共創ステージ



協調・参画ステージ



実装ステージ



効率化ステージ

第三次熊谷市総合振興計画

～R4年度　R5年度　R6年度　R7年度　R８～R９年度　R１０年度～

スマートシティの各ステージの迅速な積み上げロードマップ

ペースを落とすことなく共創により新時代産業確保・社会課題解決を目指すステージへ



民間・応用

公共・基盤

共創ステージ

熊谷SCは右の２つの早期実現に取り組める段階にR6年度到達⇒熊谷の強みの確保に向かう

産業DX・新時代産業

リアル開発や整備とデータ活用が連動したビジネス等

社会課題解決のチーム編成（目的は仕組みのビジネス化）

協調・参画ステージ

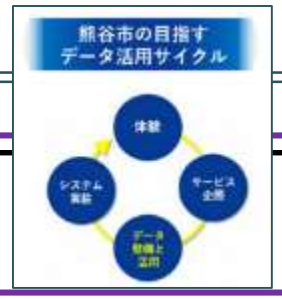
ミニ実験・プロトタイピング

コミュニティ（コミュニケーションツールによる共助・オープンガバナンス）

実装ステージ

デジタル田園都市国家構想交付金（タイプ２）採択

市民サービスの各システム





効率化ステージ

データの整備・活用

利用履歴データの教育活用等

～R4年度　R5年度　R6年度　R7年度　R８～R９年度　R１０年度～

熊谷スマートシティの目指す産業・人材・人口移動の新たな解づくりの実践（持続可能な地域エコシステムのサイクルづくり）

（４）若い世代から参加可能な課題解決型人材育成（ネットワーク・好循環・コーディネート力）

（５）産業・人材・人口移動への新たな解づくり

（１）「やさしい未来発見都市」として市民サービスへの共感を得つつ、データ及びコミュニティの充実に取り組み

（２）複数のシステム・データの組み合わせと公民連携により「デジタルと人の力で、社会を前に進めていく」

（３）熊谷スマートシティの基盤により可能性が広がった新時代の産業への展開



【実践①】「やさしい未来発見都市」として市民サービスへの共感を得つつ、データ及びコミュニティの充実に取り組む

KUMAGAYA SMARTCITY

「クマぶら」を入口に、市民の様々な活動をアシストする情報・サービスを提供

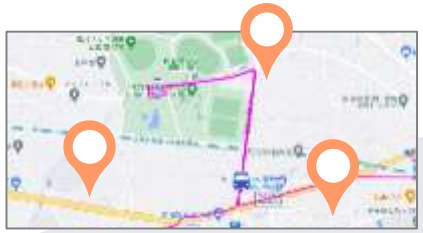
コモンデータ*1の蓄積・更新と住民参加の好循環へ

都市活動をアシストするデータ提供
（暑さ対策スマートパッケージなど）

気象（温熱環境等）シミュレーション



バス位置情報
店舗等位置情報



スマホ回数券
（コミュニティバス）





都市サービスポータル（クマぶら）

デジタルコミュニティツール
＋Webコモンスペース

地域電子マネー・
コミュニティポイント



クラウドラボ等の
Webコモンスペース



データ連携基盤

各アプリの連携・オプトイン（データ利用同意）により提供されたデータ分析によるサービスの向上

コモンデータ＊1　「誰でもデータ作成に関われる仕組みの考え方」を検討する上での用語としてデータ活用部会（熊谷スマートシティ推進協議会）において使用

【実践②】複数のシステム・データの組み合わせと公民連携により「デジタルと人の力で、社会を前に進めていく」

KUMAGAYA SMARTCITY

熊谷駅周辺の市街地８か所に気象センサーを設置し、３Ｄ都市モデルを用いた気象シミュレーションを実施



気象シミュレーション範囲図
・シミュレーション範囲
熊谷駅を中心に徒歩15分圏内約２Ｋｍ四方



Ｒ５年度　ＬＯＤ２整備範囲図
熊谷駅周辺エリア
（面積：0.6㎢　建物：2,100棟）

熊谷市暑さ対策スマートパッケージの機能

コミュニティポイント ボーナス付与



コミュニティポイントが獲得できるクールシェアスポットを近い順に表示

クールシェアスポット 協調表示



クールシェアスポットの場所・詳細情報の確認などができます。

まちなかヒートエリア 可視化

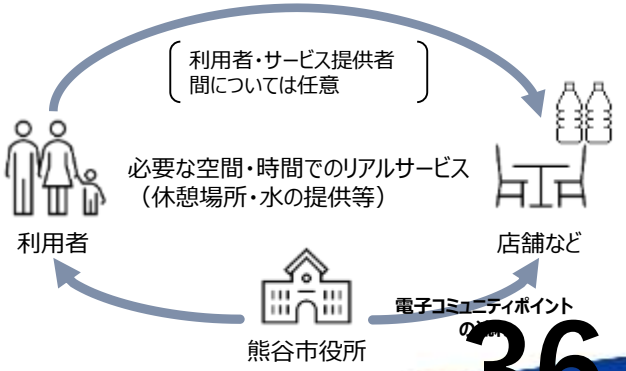


温熱環境シミュレーションの結果を表示し、相対的に暑いエリアが把握できます。



スマホサービス（クマぶら）

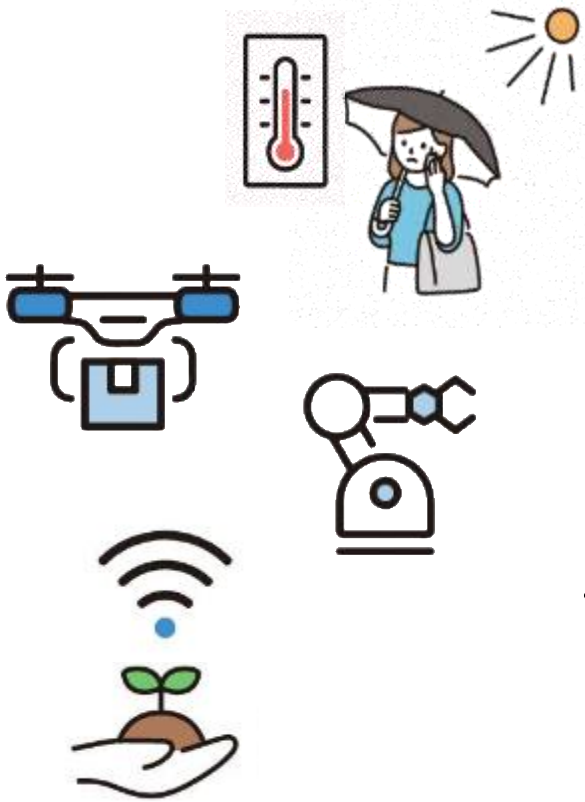
クマポを行動変容に活用



市民・来訪者と店舗がWin-Winのまちなかウェルカム

【実践③】熊谷スマートシティからつなげる新時代の産業への展開（案）

「気象データ取扱いのノウハウが市民等に最も身近な都市」から新時代の産業へ



①気象観測・データ活用・クールアイデア

②ロボット・ドローン実証

③（仮）先導的農業（スマート含む）

現時点の市民等の実感・参画のしやすさ

持続的に付加価値を生み出し続けられる可能性

３分野がセットとなり、その時点の技術・社会・関係者の情勢により牽引する分野を入れ替えながら競争力を維持していくことを

「熊谷の新時代産業モデル」と位置づけ、

関係者とのネットワークづくりなどに長期的視点で取組む。

【実践④】課題解決型人材育成（ネットワーク・好循環・コーディネート力）

KUMAGAYA SMARTCITY

コミュニティラボ・デジタルデータなどで身に着ける素養






自己表現 → 可視化世界への提案 → 好循環の構想 → 好循環の実践



市内中学校パソコン部との意見交換の様子（R7年２月）

コミュニティラボを１年間運営しての課題感

新しい課題に向かいチームを編成・運営する多様なコーディネート力

（取組例）シーンスケッチコンテスト

みんなで描くまちの未来と暮らしかた

　熊谷市では、市民目線でデータ利活用を推進し、まちの魅力を創出することを目的とし、スマートシティの実現に向け取り組んでいます。
　デジタル技術を活用した結果、未来の熊谷市が、どのように変わっているか、あるいはどんなふうになったら便利か、楽しいか、うれしいか、幸せを感じるか、皆様と共に考えるきっかけや市の取組の参考とするため、皆さんがイメージする「まちの風景」「人々の生活」の絵を『**シーンスケッチコンテスト**』として募集します。

○一次審査会審査基準

リアルな暮らし部門
実現可能性：市の都市計画や現在の技術レベルに適合するか。
市民の暮らしへの影響：住みやすさ、環境負荷、公共サービスの向上など。
都市ブランドとの親和性：熊谷市の特徴や文化を反映しているか。
技術的視点の追加：システムベンダーの視点から、デジタル技術やスマートシティ化の可能性を評価。

未来創造部門
未来技術の革新性：理論上可能な技術、または技術発展の可能性があるか。
都市の新しい可能性：ロボット、AI、環境テックなどが都市生活にどのような影響を与えるか。
ビジョンの魅力：未来像としてワクワクするか、創造性が高いか。
ウェルビーイングへの寄与：そのロボットの登場で市民の幸福度がどの程度向上しているか



（取組例）「子どものまち」（デジタル地域通貨「クマポ」の活用例）

※イベント内の通貨として「クマポ」を活用いただきました。









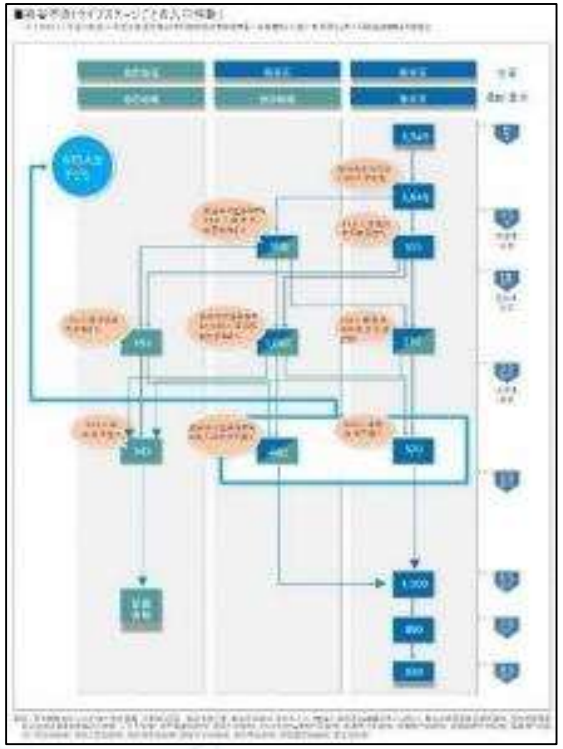
【事業概要】
全国的に行われている子どもが自分たちでお店の企画等を考え、まちをつくる「子どものまち」を熊谷で実施。（令和６年度に市民活動団体「ぷちくまがや」が熊谷市民公益活動促進事業ステップアップ助成金を活用。）

【特徴】
・お店で店長をしたり、お店の体験をすることで発想力をはぐくむ。
・お店を現実の「まち」のイベントの出店店舗の１つとして出すことで現金のやり取りや、クマポを活用したデジタルのやり取りなどを体験。
・自分自身が考えたお店を出店することで自信をつけること、うまくいかなかったときにはどうやったら、解決できたかを次のイベント時までに考えることで自主性をはぐくみながら、自分自身の自己肯定感を高めることが期待できる。

【クマポの活用】
・参加した子供たちやボランティアで協力した方にクマポを付与。
・クマポをまち内限定の通貨として、射的に参加したり、射的の玉数を増やすなどの手段として活用。

【実践⑤】産業・人材・人口移動への新たな解づくり

現在、大学卒業後の市外在住・勤務の545人（約35%）および市内在住・市外勤務480人（約31%)の計約66%（注）が熊谷市外で勤務している状態であるが、上記の初等・中等教育段階をめがけた実践体験の提供と、高等教育段階を想定した産学官連携による機会増大、さらにそれらと市内におけるスマートシティを基礎とした派生的な産業の創出や既存の産業の進化との間で好循環を生むことで、改善を図る。（上記の各取組みは第３期都市人口ビジョン・総合戦略における基本目標【１】雇用の創出を実現するための施策の方向性１－５（地域を支える人材・組織の育成）にも掲げられている。）



最終的には、第３期熊谷市人口ビジョン・総合戦略に「基本目標１」として示された計画期間（R7年度～R11年度）終了時の雇用の創出のKPIにあたる市内従業者数の維持（94,000人）の一部をスマートシティから派生する・進化を促される産業で担いうる可能性を追求すると共に、人口減少・高齢化の進行の中で、雇用者の確保が厳しくなることが見込まれる中でも、それらの産業等の雇用が熊谷市と紐づいた原体験を有する人材の確保、及びコミュニティラボの取組みによりつながる関係人口等により適切に満たされることを目指す。

（注）1,545人（令和2年度～令和3年度に熊谷市内の中学校を卒業する一学年あたり人数）を基準とした人口移動のおおよその推計。（下記の資料を参考とした独自推計に基づく。）

資料：第２期熊谷市人口ビジョン･総合戦略、令和2年度版　熊谷市統計書、熊谷市年齢別･男女別人口、RESAS、総務省による統計ダッシュボード、熊谷市教育委員会提供資料、埼玉県教育委員会高校卒業者の進路状況調査、立正大学HP、高等看護学院HP、農業大学校HP、アルスコンピュータ専門学校HP、看護専門学校HP、栄養専門学校HP、調理師専門学校HP、製菓専門学校HP、熊谷高校HP、熊谷工業高校HP、熊谷商業高校HP、熊谷女子高校HP、熊谷西高校HP、熊谷農業高校HP、妻沼高校HP



熊谷市スマートシティ部高校生版

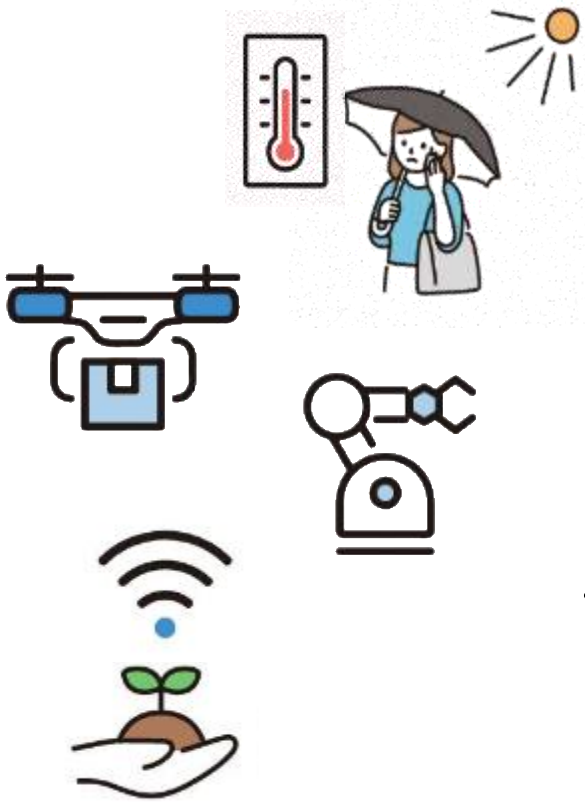
リージョナルゲート　三宅　創太

KUMAGAYA SMARTCITY

【実践③】熊谷スマートシティからつなげる新時代の産業への展開（案）

KUMAGAYA SMARTCITY

「気象データ取扱いのノウハウが市民等に最も身近な都市」から新時代の産業へ



- ①気象観測・データ活用・クールアイデア
- ②ロボット・ドローン実証
- ③（仮）先導的農業（スマート含む）



３分野がセットとなり、その時点の技術・社会・関係者の情勢により牽引する分野を入れ替えながら競争力を維持していくことを

「熊谷の新時代産業モデル」と位置づけ、

関係者とのネットワークづくりなどに長期的視点で取組む。

【実践④】課題解決型人材育成（ネットワーク・好循環・リーダーシップ）

KUMAGAYA SMARTCITY

コミュニティラボ・デジタルデータなどで身に着ける素養






自己表現 → 可視化世界への提案 → 好循環の構想 → 好循環の実践



市内中学校パソコン部との意見交換の様子（R7年２月）

コミュニティラボを１年間運営しての課題感

新しい課題に向かいチームを編成・運営する多様なリーダーシップ

◯熊谷スマートシティが目指すもの。

～スマートシティ宣言「**デジタルと人の力で社会を前に**」の中身～

・(デジタルで時間と場所にとらわれずに繋がれる)**【ネットワーク】**

・(デジタルデータで世界を見通せる範囲が広がった中での)**【好循環】**

大人がコミュニティラボ・スマートシティ関係業務等の中で【ネットワーク】を活かし、【好循環】の共創を実践していてこそ、子ども・生徒・学生を迎え入れ、その力を発揮してもらうことが可能に。

熊谷コミュニティラボ（コミュニティ＋ラボ）

人のつながり（コミュニティ）を活かした誰もが自由な雰囲気で語り合うことができ、夢を実現できる場（ラボ）

コミラボ・ナウ掲載ページ

熊谷コミュニティラボ（Slack）入会



R7年度大学生・専門学校生・高校生などに向けた情報発信段取り（案）

KUMAGAYA SMARTCITY

４月～ **高校生による３D都市モデル活用**

高校生による地域での部活動的な若者ラボ

７月～ 参加者掘り起し

８～１０月 チュートリアル・第一部【都市編】

１～２月 第二部【体験編】

９月～ 参加者掘り起し

１０月～ **【検討中】大学生・専門学校生等に向けたデジタルインターンメニュー**

★ （仮称）学生が安心して暮らせるまちづくり会議

大学生のスタートアップ企業インターン（デジタルインターンを種に備える。）

スマートシティにおいてロボット・ドローンに取り組む意義

KUMAGAYA SMARTCITY

個別機械の将来像（産業DX）

ハード・ソフト一体型の開発プロセスの高度化
＋単体として（あるいはラインの１部として）の機能の高度化



都市の将来像の実現のためには、個別機械の開発技術のみでなく、人間や他のロボットとの共存のための支援を体系的に整備することが必要。

空間の記載仕様やデータの充実



機械判読可能な空間データの充実＋自己位置推定が可能な機体

人間や他のロボットと共存できる支援体系（注）を備えた空間

（注）システム連携サービス、ロボットフレンドリーな都市設備ガイドライン、リスク回避ガイドラインなどの体系を指す。

都市の将来像（スマートシティ）

（例１）統合型制御のイメージ



（例２）分散型制御のイメージ



カリキュラム

KUMAGAYA SMARTCITY

実施概要（１）

【１】チュートリアル

①（第一回）日程：8月10日（日）13:00-16:00　　場所： さいしんホール（市主催のコミュニティラボ１周年シンポジウムにて、特別席を準備）

説明内容：スマートシティにおけるコミュニティラボの取り組みについて（副市長・三宅アーキテクトほか）

～熊谷スマートシティの子供・生徒・学生向けの取組みと「スマートシティ部高校生版」の位置づけなど～

②（第二回）日程：8月30日（土）13:00-16:00　　場所：市立中央公園内緑化センター（市主催のロボットシンポジウムにて、特別席を準備）

講演内容：「熊谷スマートシティを支えるサービスロボットの可能性」

講演者：特定非営利活動法人ロボットビジネス支援機構（RobiZy）　副代表理事　伊藤デイビット氏

（※）前半の講演後、後半ではスマートシティとロボットの今後の社会的役割、具体の分野での活用可能性等に関する簡易なワールドカフェ形式（注１）の意見交換・RobiZyプロジェクトプロモーションオフィサー村上出氏による総括を予定。

（注１）ワールドカフェ形式：参加される方の一部がテーブルを移りつつ、各テーブルの話題についてコーディネーター役や他の参加者と意見交換を行う形式を予定します。各テーブルのコーディネーター役（様々な立場で熊谷スマートシティやロボットに関わる方）は動かず、他の参加者に動いていただくことで、多様な意見交換の機会となることを目指します。テーブル毎の結論や意見をまとめることを目的としませんので、お気軽にご参加ください。

（注２）チュートリアルに参加が困難な場合には、上記以外の日程での説明・意見交換を調整可能とする予定です。

実施概要（２）

【２】 第一部【都市編】として、ロボット同士のデータ連携、ロボット同士や人間との協働運用について。

主な連携先（予定）：特定非営利活動法人ロボットビジネス支援機構（RobiZy）様

・群馬大学次世代モビリティ社会実装研究センター様・株式会社SHITARA様

①（第三回）日程：９月中旬　　場所： 未定（市内を予定）

説明者：（仮）ロボティクスインテグレーター事業者様（RobiZy会員を想定）

【テーマ】ロボット同士のデータ連携、ロボット同士や人間との協働運用について

②（第四回）日程： １０月中旬　　場所： 未定（市内を予定）

説明者：（仮）群馬大学次世代モビリティ社会実装研究センター様

【テーマ】（仮）自動運転の実現のための、空間データ・センサー等について

（前橋市のバス自動運転に向けた実証の内容の紹介など。）

※会場（市内を予定）においては、市役所職員等が同席し、高校側の引率等をいただく必要がないように努める予定。

実施概要（３）

【３】 第二部【体験編】として、ハード・ソフトを一体的にロボットを理解する。

主な連携先：ものつくり大学様・市内関係者

①（第五回）日程：調整中（１２月、２月中下旬、３月初旬）

場所： 未定（市内もしくは隣接市を予定）

説明者：調整中

【テーマ】調整中

②（第六回）日程：調整中（１２月、２月中下旬、３月初旬）

場所： 未定（市内もしくは隣接市を予定）

説明者：未定

【テーマ】調整中

※会場（市内を予定）においては、市役所職員等が同席し、高校側の引率等をいただく必要がないように努める予定。

質疑応答

KUMAGAYA SMARTCITY

ロボットシンポジウムについて

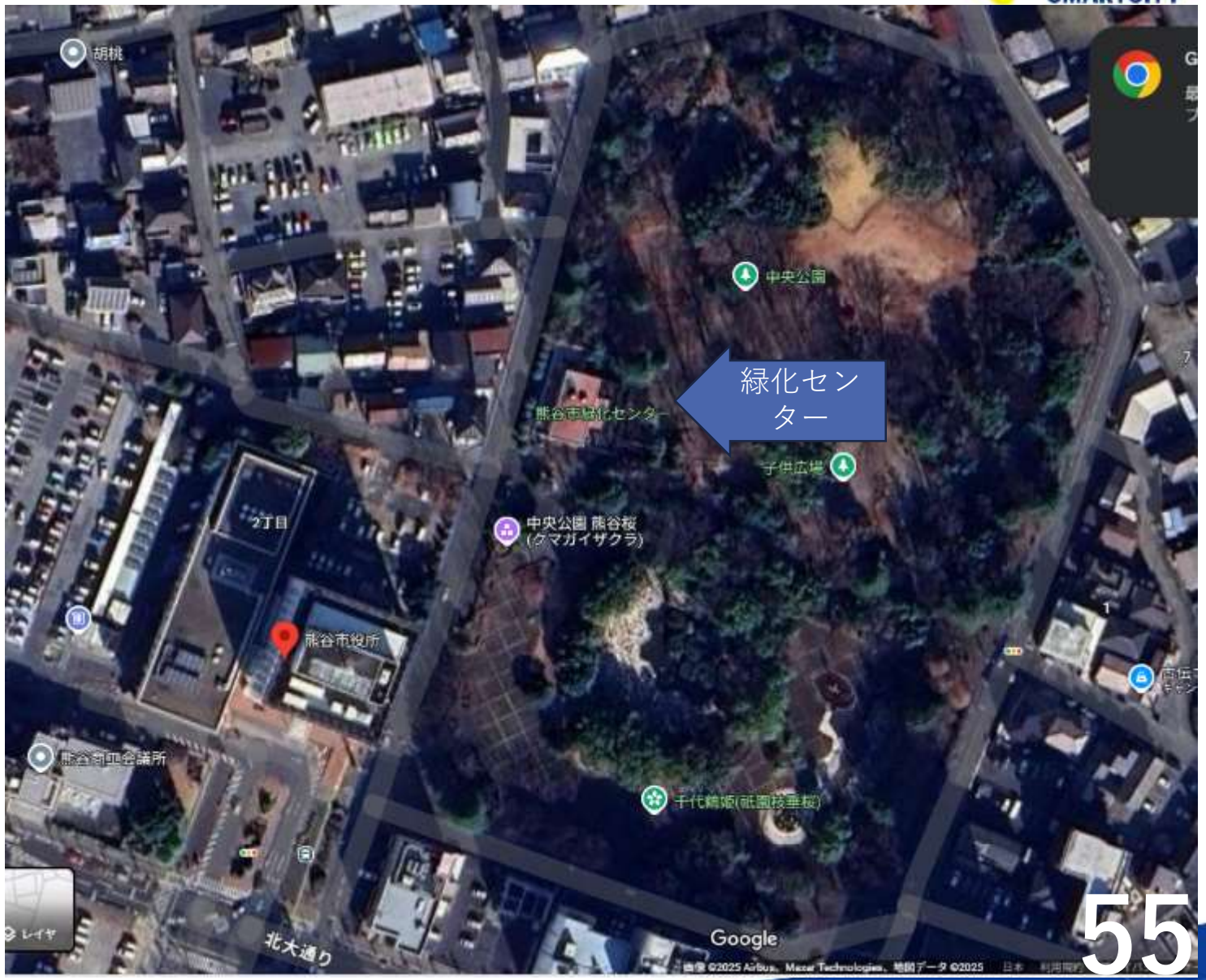
KUMAGAYA SMARTCITY

事業者等のマッチング（熊谷市「ロボットシンポジウム」）

KUMAGAYA SMARTCITY

熊谷スマートシティ　ロボットシンポジウム

日程：8月30日（土）13:00-16:00　　場所：市立中央公園内緑化センター



（補足）Ｒ７年秋に中央公園で３回ほど個人モビリティイベントも予定。
①主催：熊谷市役所
②車両協力：一般社団法人公縁クロス機構
③同日の地元側イベント：
ハッピーパークマーケット（主催：一般社団法人まちなか再生エリアプラットフォーム）
9月６日（土）、１０月４日（土）、１１月１日（土）

ロボットシンポジウム　コンテンツ（案）

【１】配置等

（１）２階研修室
シンポジウム

（２）一階ロビー及び展示室
①株式会社シタラ様のロボット展示。（包括連携協定を締結済み。）
②株式会社アトラックラボ様のPR動画など。（包括連携協定を締結済み。）
③地元企業による試作品（ミストAGV等）の展示

（３）その他
・和室を控室として使用する想定。
・ロボットをテーマにしたシーンスケッチコンテストのPRを実施。

ロボットシンポジウム　コンテンツ（案）

■シンポジウムスケジュール（案）

13:00-13:30 受付・入室
13:30-13:35 開会挨拶
13:35-14:20 基調講演：**「スマートシティを支えるサービスロボットの可能性」**(仮)
特定非営利活動法人ロボットビジネス支援機構（RobiZy）
代表副理事長伊藤デイビッド逞叙氏
14:20-14:30 休憩

14:30-14:40 市役所による**「熊谷スマートシティにおけるロボット活用に係る模索」**説明
14:40-15:10簡易なワールドカフェ形式**「熊谷スマートシティのロボット活用の方向性」**(仮)
　（注）テーブル数及び各テーブルのコーディネーターは調整中

15:10-15:30 講演・総括：**「サービスロボットの導入・運用に向けた課題」**
特定非営利活動法人ロボットビジネス支援機構（RobiZy）
プロジェクトプロモーションオフィサー
（埼玉県産業振興公社コーディネーター）村上出氏

15:30-16:00 交流・名刺交換

ロボットシンポジウム　コンテンツ（案）

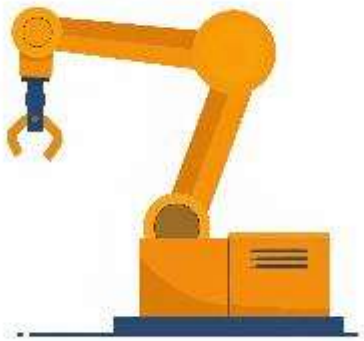
■シンポジウムの構成の考え方
・基調講演において、サービスロボットの市場動向、スマートシティにおけるサービスロボットの役割、利用分野やユースケースを紹介（インプット）
・市役所より取組み状況を共有。
・簡易なワールドカフェ形式により「熊谷スマートシティのロボット活用の方向性」について様々な方向性があることを実感していただく。（模索の時期と考えているため、ワークショップ形式で提案を求めることはせず、ワールドカフェ形式を採用予定）
・総括と併せて、実際の導入･運用にあたっては地域内での共創が欠かせないことを「課題」としてご案内し、参加者に協働を呼びかける。

■紹介するユースケース＝アウトプットへのヒント（想定）：
a.「巡回型センサー搭載ロボ」によるモニタリング（気温、湿度、PM、混雑検知）、
b.「対話・案内型ロボット」による住民対応（熱中症警告・涼しい場所案内）、
c.「在宅支援ロボット」による見守り（高齢者宅での暑熱危険アラート）、
d.「草刈り・清掃支援ロボ」による作業支援（屋外作業の熱中症リスク軽減）、

ロボット・ドローンがスマートシティのサービス向上につながる構造

個別機械の将来像（産業DX）

ハード・ソフト一体型の開発プロセスの高度化
＋単体として（あるいはラインの１部として）の機能の高度化



都市の将来像の実現のためには、個別機械の開発技術のみでなく、人間や他のロボットとの共存のための支援を体系的に整備することが必要。

空間の記載仕様やデータの充実



機械判読可能な空間データの充実＋自己位置推定が可能な機体

人間や他のロボットと共存できる支援体系（注）を備えた空間

（注）システム連携サービス、ロボットフレンドリーな都市設備ガイドライン、リスク回避ガイドラインなどの体系を指す。

都市の将来像（スマートシティ）

（例１）統合型制御のイメージ



（例２）分散型制御のイメージ



次期総合振興計画に向けた「ロボット実証サポート都市」へのロードマップ（案）

R７年度	R８年度	R９年度	R１０年度

ロボット・モビリティ個体側の技術力・人材育成（地元大学・地域製造業と連携） → **【技術と人材】**

＋

空間データ活用ロボットフレンドリー都市づくり（スマートシティの蓄積と連携） → **【リアル空間とデータ空間が双方向で接続】**

ロボットシンポジウム → 実証空間での自立稼働の試行 → 実証空間での自立稼働の試行（高度化）

＋

実証空間３Ｄデータアセット（移動モデル重ね合せ用）作成 → データ空間におけるシンクロ表示試行（リアル→データ）

ロボット実証サポート都市へ

屋内外を通じた多様なシナリオの実証を、安全に低コストで実証可能

空間データ活用型の若者ラボ（人材育成）

２Ｄ・３ＤのGISを活用した都市構造の可視化により市民の共感を得て、公民連携まちづくりを促進

各種オープンデータ等（民間連携により得られるデータを含む）によるデータ駆動都市の取組み

60

熊谷市の地域環境とスマートシティの取組から相乗効果を生む「ロボくま」

KUMAGAYA SMARTCITY

地元大学・地域産業連携によるロボット・自動モビリティ個体側の機能確保

制御部・駆動部など（制御部はリモコン・センサー・AIまで含む）

人の安心感を確保するウェルビーイングテック ⇔ 機械最適出力

〇市民の共感醸成
・ロボットに触れる機会の拡大等 ⇨

「ロボくま」が目指す人とロボットの共存する「やさしい未来発見都市」

〇自由な実験が可能な空間の確保 ⇨

人とロボットの共存に適したリアル空間 ⇔ 機械最適空間

〇３Dモデルやデータ協定の取扱いノウハウ ⇨

機械の判読・人のVR利用の両方を想定したデータ整備 ⇔ 機械用データ

ロボットフレンドリーな環境整備（空間・データ・協働プラットフォーム）

【想定される空間】 住宅 サービス空間 福祉 店舗 通路・街路 作業空間（有人） 作業空間（無人）

ロボット産業にとっての魅力と市民の共感に係る「ロボくま」ストーリー（案）

KUMAGAYA SMARTCITY

令和６～７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度～

1）市民がロボットにふれあい、可能性に気づく。

2）自らロボットを操作・日常的な課題を解決する試作へ。

3）試作の体験自体を教育コンテンツに仕上げる（ロボットプログラミング教室として事業化する）。

4）地域で人材が育っていくサイクルの構築・定着。

5）ロボット製造・カスタマイズ等のロボットクラスターを生み出していく。

生活ロボ試作品作成・展示拠点確保

建物内の動作画像（教材コンテンツ化）

一般向けの試作品操作体験提供

ロボットプロブラミング体験の機会提供

ロボコン（ロボットプロブラミングコンテスト）参加機会提供

【目標】公道・屋内シームレス実証の検討

【目標】大学生・高校生が中学生を指導するなど地域内継承の実践

【目標】（仮称）ロボくま調達モデルの検討

「サービスロボット・ドローン」に関する熊谷市の取組み

・市内企業等と連携し、生活支援ロボット・ドローン等の実証を受け入れやすい環境づくり、新たな運用の開発などについて可能性を探る。
・市民がまちなかで各種ロボット・ドローンに触れる機会の拡大にも着手。(中央公園イベントにおける芝刈りロボットの展示、星川通り産業イベント等における追従型ロボットの展示等を実施済み。)
・ロボット・ドローンに関する上記の取組みにおいては、自動運転のモビリティ、スマート農業等の普及促進や運用支援につながる知見が獲得できる可能性も意識して取り組む。

芝刈りロボット



追従型の運搬支援ロボット



（準備中）水中用ドローン



市民とロボットのふれあいの機会の拡大（追従機能のみを活用）

KUMAGAYA SMARTCITY

まちなかイベントでの実演（R6年10月）







うちわ祭の山車にミスト車・給水車が随行（R７年７月）







（参考）筑波二丁目市有施設の利活用

（熊谷駅北口から徒歩３分・R7年秋オープン予定）

グランドフロア滞在交流拠点「I TO MA」

一階はウォーカブルなまちなか再生のために公民連携のスキームで運用される滞在交流拠点。



イメージ画像

＋

ロボくまロフト



二階以上の旧医院・住居を活用した、生活支援ロボット等の稼働を実証する空間として活用予定



子供たちにロボットとの触れあいの機会等を提供するなど、
「やさしい未来発見都市」熊谷スマートシティならではの新拠点に。

（検討中）ロボくまラウンジ・ロボくまロフト企画（案）

熊谷スマートシティの新時代産業を支えるロボット・ドローン分野に関して、製品・試作品を前に打合せが可能なスペース（ラウンジ）と、屋内でのロボットの稼働の実証空間（ロフト）を令和７年１１月以降にまちなかでオープン。

ロボくまラウンジ



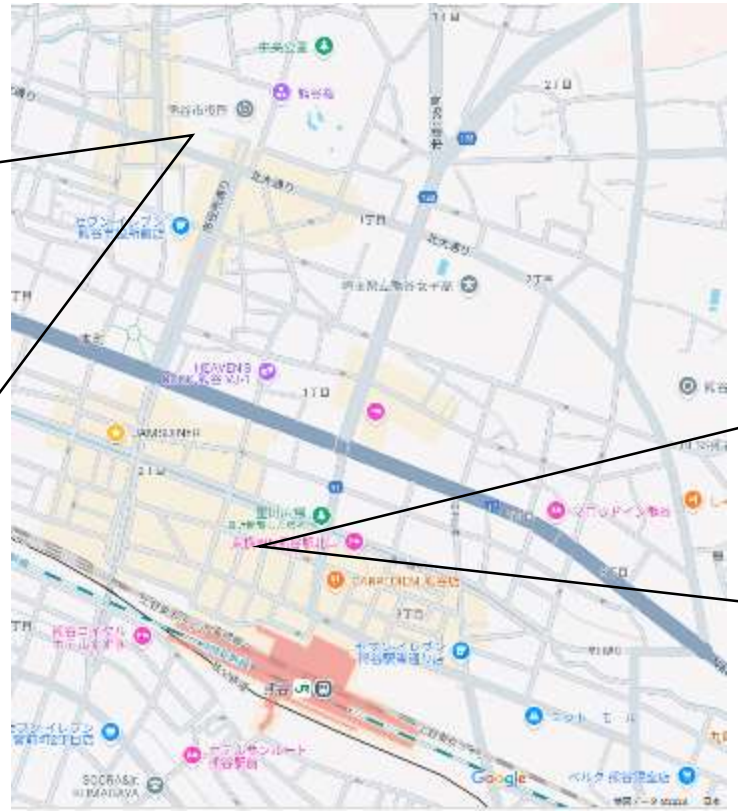
旧商工会館１階に設置されるロボット等の製品・試作品を前に打合せ可能な打合せ空間

（駅から１５分・市役所隣接）









ロボくまロフト



２階以上の旧医院・住居を活用した、生活支援ロボット等の稼働を実証する空間

（駅から３分・一階に交流スペースあり）



（注）一階は滞在交流拠点が令和７年１０月にオープン予定。

【目標：R9年度当初より稼働】
ロボくまラウンジ・ロボくまロフトで提供されるサービス（案）

〇（仮称）「熊谷ロボットコンソーシアム」（事務局〇〇）でロボットの取組みの各段階に応じた伴走支援を実施。
〇同コンソーシアムと提携等により（仮称）「ロボくま調達」の対象に。

ロボくまクラフト

プログラミング体験等



ロボくまパブリック

試作・公共空間や
建物内での実証



ロボくまバーチャル

空間データ確保・
３Dショールーム



ロボくまインテグレーター

産業現場へシステムとして実装



産業DXクラウドファンディングによるロボットと未来をつくるプロジェクト支援

KUMAGAYA SMARTCITY

ロボットと未来をつくる『TEAM　ROBOくまがやDXラボ』



私たち㈱SHITARAは、仕事を通して成長し、社会に貢献することを目指しています。

社会情勢の変革そして低迷する経済のなか、当社は多様なニーズを的確に把握し、情報処理技術のデジタル世界から特殊印刷・加工等のニュービジネスに至るまで様々なアイデアを立案し、業界関係者の独創性を発揮していただけるように努めています。

グローバル市場の動向を先取りし、スピード感ある変革を成し遂げるため、現状に甘んずることなく新市場・新分野に挑戦し、業界の発展に全社員が「一枚岩」となり邁進する所存でございます。



「産業DXプロジェクト」（令和7年度）募集
令和7年12月31日（水曜日）まで
随時募集・要事前相談

次シートの二次元コードから、ぜひご支援をお願いいたします！

TEAMROBOプロジェクト「人とロボットが共存する世界へ」

ロボットに助けてもらう、ロボットと共に笑う、ロボットと共に大切な時を過ごす。
そんな世界が当たり前になるのも、もう遠くないのかもしれません。
親しみやすい、ヒト中心のロボットを提供することで、やさしいテクノロジーの世界を共に作っていきたい。次の世代に想いを繋げ、その様な想いを持ち、様々な分野へロボティクスを推進します。

今回、私たちは熊谷スマートシティの取組に賛同し、熊谷市内にある弊社の埼玉営業所の一部を、印刷機関連の事務所からロボットショールームに改装し、地域のロボットの拠点とすることを企画しました！

近年、企業のDXが急速に進む中で、ロボット技術の活用が業務効率化や生産性向上において重要な役割を果たしています。
今回チャレンジする『TEAM　ROBOくまがやDXラボ』プロジェクトでは、熊谷市の企業が最新のロボット技術を導入し、DXを推進することを目的に次の事業を展開します。

【ロボットショールームの開設】
【セミナー・体験会の開催】
【個別相談・導入支援】
【産業イベントへの出展・他機関との連携】

これらの事業を通じて、市内企業のDX化を加速させるとともに、地域経済の活性化にも貢献していきます！

埼玉県熊谷市×TEAM ROBOくまがやDXラボ

熊谷市では、『熊谷スマートシティ』の取組の一環として、熊谷市内で産業DXの推進にチャレンジする事業者をGCF®を活用して応援しています！
今回は、令和7年2月27日に熊谷市産業DX推進事業として認定しました㈱SHITARAの『TEAM　ROBOくまがやDXラボ』プロジェクトを応援します。
令和7年6月20日には、㈱SHITARAと熊谷市で包括連携協定を結び、本市の産業DXを協働で推進する体制を築くことができました！
このプロジェクトにより、熊谷市内に最新のロボットショールームが開設され、包括連携協定に基づく様々な事業が展開されることで、地域全体のDXを推進し、デジタルと人の力で社会を前に進めていく『熊谷スマートシティ』を実現します！







画像は全てイメージ

～2025年9月29日（91日間）

ふるさとチョイスGCF「ロボットと未来をつくるTEAM ROBOくまがやDXラボ」ページ

連携を想定するロボット・ドローンに関係する活動・団体等

埼玉県庁（(仮称)ロボティクスセンター等)、国(秩父市周辺等でのドローン実証コンソーシアム)、民間団体(ロボットビジネス支援機構)などの動向について継続的に情報収集を行い、関係者から熊谷市内での実証の提案を受けられる素地づくりに取り組む。

埼玉県ロボティクスネットワーク



SAITAMAロボティクスセンター（仮称）：令和８年度開所見込み



まちづくり社会実装コンソーシアム

2024年6月14日、秩父市において「まちづくり社会実装コンソーシアム設立準備会」を秩父市で開催し、多くの民間業者や自治体関係者が参加。
（秩父市は、2023年に経済産業省が策定した「デジタルライフライン全国総合整備計画」の中の「アーリーハーベストプロジェクト」の1つである「ドローン航路」の設定に関して先行地域に選定されている。）



※デジタルライフライン全国総合整備計画
https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/digital_architecture/lifeline.html

NPO法人　ロボットビジネス支援機構｜RobiZy





産業ビジョンについて

KUMAGAYA SMARTCITY

R７年８月４日

熊谷市まちなか産業共創ビジョン（Ver1.0案）



常にヒト・モノ・情報（データ）が流れ
必要な商品・サービスに出会えると共に、
新しい物語・ビジネスを生み出せる
活力あるまちなかへ

本ビジョンの目的

1. スマートシティの実装から持続可能性の確立への接続

熊谷市は令和5年7月に「熊谷スマートシティ宣言」を行って社会実装フェーズに移行し、以降、複数のデジタルサービスの実装を実現しています。本ビジョンはこれらの取り組みを、熊谷市の継続的な活性化につなげるための枠組みを示します。まちづくりや地域経済、生活サービスへと成果を連携させることで、持続可能な地場産業や雇用創出を目指します。

2. 産学、市民との地域共創の実現

「産業創造」や「まちづくり」を支えるため、熊谷市では産学官連携や市民参加型のワークショップ（例：スマートクールシティワークショップ）を推進しています 。こうした取り組みにより、大学や企業、行政、市民が意見やデータを出し合い、サービスやビジネスを共同創出するエコシステムを形成します。それにより、地域内の人材・資源・アイデアを循環させ、地域版イノベーション促進を目指します。

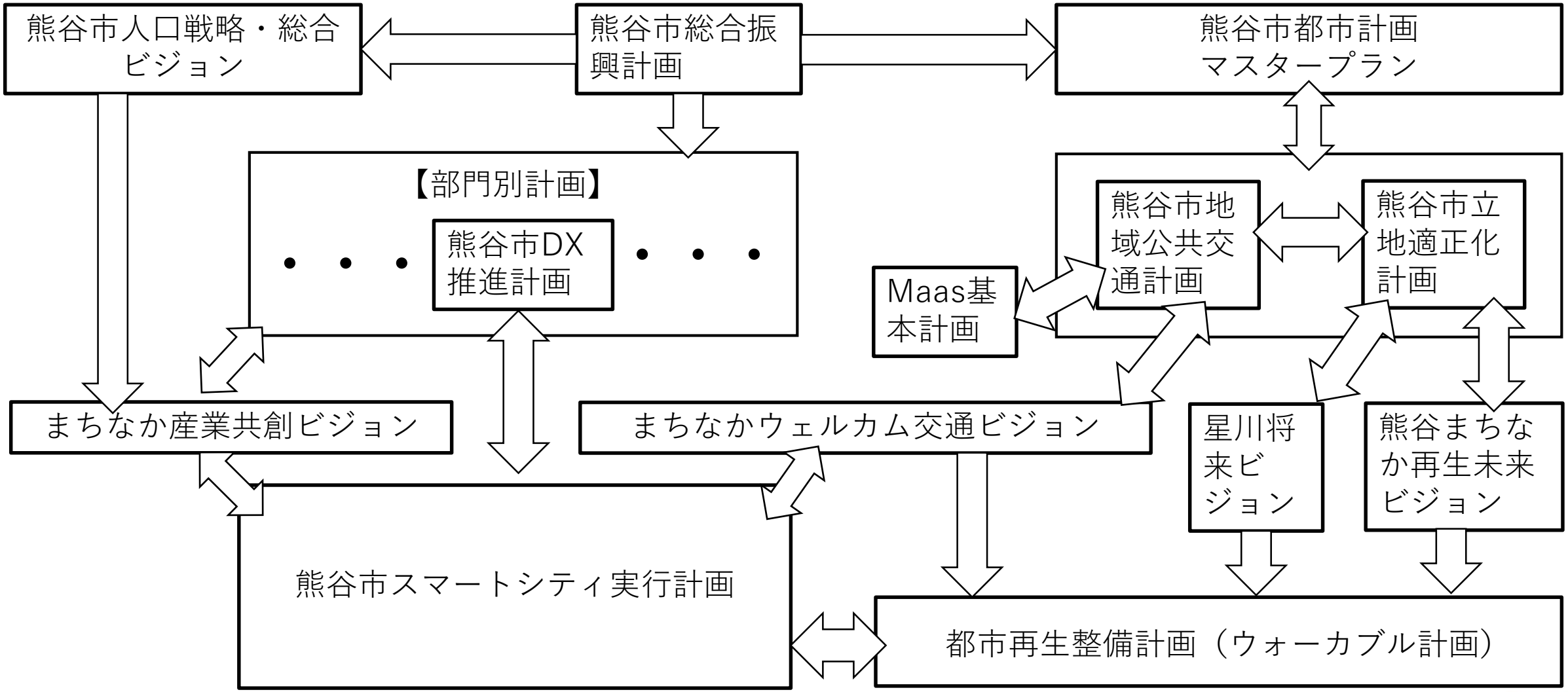
3. データ基盤を活用しウェルビーイングを志向するまちづくりの定着

熊谷市では、人流データ・気象データ・アプリ利用のデータを収集・分析し、可視化・配信・各種サービスへの応用等に取り組んでいます。本ビジョンはこれらの取組により市民の共感を生み出し、自己実現の機会を提供することによりウェルビーイングを高めると同時に、社会課題解決型ビジネスの創出を促し、地域経済を支えることを目指します。

４. 地域の特性を活かした差別化

熊谷市は「暑いまち」という地理的特徴を逆手に取り、暑さ対策を中心としたスマートシティサービスを打ち出しており、暑熱対策に関するデータ・技術・サービスを全国、あるいは国際的に展開する可能性の掘り起しに取り組みます。また、データサイエンス、メカトロニクス等の専門性を有する大学の立地と、商業・工業・農業等がバランス良く立地している条件をロボットの産業活用・都市サービス向上につなげる取組を進めます。

熊谷市まちなか産業共創ビジョンの位置づけ



スマートシティスキルカタログ

熊谷SCトータルブランディング方針

Web共創・情報発信等実践方針

３D都市モデルまちづくり副読本

熊谷市公民連携まちづくり実践方針

熊谷市まちなか産業共創ビジョンの構成

第 一 部：立地と利便性の魅力向上

【1】 熊谷駅周辺のまちなか構造のとらえ方

【2】まちづくりと公共交通・モビリティ

【3】個人情報を守りつつデータを活用する都市で生まれる新しい楽しみ方

第 二 部：ヒト・モノ・情報の流れの活性化、イノベーション促進

【1】スマートシティの先に目指すべき産業創出の形

1.熊谷スマートシティにおける「新産業の可能性共創」
2.スマートシティの新時代産業と産業・人材・人口移動の新たな解づくり
3.スマートクールシティの取組み
4.「ロボくま」の取組み

【2】デジタルコミュニティより支えられる市民共創型の社会課題解決

5.デジタルを活用したWebコモンスペースの提供
6.社会の変化に対応する「企画」と「実行」の円滑な循環
7.市民の共感を重視した社会課題解決型のビジネスへの伴走
8.子供・若者に向けた機会の提供（ツールの検討）

持続可能な地域産業・人材循環の形成
（スマートシティによる持続可能な産業・まちづくりの実現）

第一部：立地と利便性の魅力向上
～まちなかの商業・サービス業の立地に関する利便性等の魅力の確保

第二部：ヒト・モノ・情報の流れの活性化、イノベーション促進
～まちなかでのヒト・モノ・情報（データ）の流れを円滑にし、多様なマッチングの機会を提供することで、創業やイノベーションを促進

第一部：立地と利便性の魅力向上
～まちなかの商業・サービス業の立地に関する利便性等の魅力の確保

【１】熊谷駅周辺のまちなか構造のとらえ方

【２】まちづくりと公共交通・モビリティ

【３】個人情報を守りつつデータを活用する都市で生まれる新しい楽しみ方

【１】熊谷駅周辺のまちなか構造のとらえ方

【街なかのプロジェクト一覧】

（一社）熊谷コミュニティアセットマネジメント　協力：㈱まちづくり熊谷・熊谷市役所
R7.07作成

KUMAGAYA SMARTCITY





（仮称）第2中央
生涯活動センター
R9.10月オープン







県立熊谷高校
母子健康センター
/看護専門学校
箱田児童館
箱田保育園
西小学校
子育て支援・保健拠点施設
「くまキッズ」R8.4月オープン
○は・ぴ・ま
～ハッピーパークマーケット～
4～12月（8月除く）第1土曜日
熊谷保健センター
障害福祉会館
中央公民館
中央公園
熊谷市役所
イオン熊谷店
/片倉シルク記念館
八木橋百貨店
コミュニティセンター
北部地域振興交流拠点
A棟（市庁舎、地域の活力向上機能）
○星溪園
魅力向上社会実験
R7.9.6～10.26
市営本町駐車場
○グリーンスローモビリティ走行社会実験
R7.9.27～10.26
熊谷東小学校
県立熊谷女子高校
北部地域振興交流拠点
B棟（未来の県庁の先行モデル）
公有財産貸付利用
R7.10.11オープン予定
熊谷駅
アズ熊谷
ニットーモール
ティアラ21
熊谷駅南口周辺
まちづくりビジョンの策定
荒川公園周辺
再整備（体育館）
文化会館
/桜木小学校
南小学校
熊谷市荒川かわまちづくり計画

【凡例】
プロジェクト　…
公有施設　…
主な商業施設　…
自転車道路

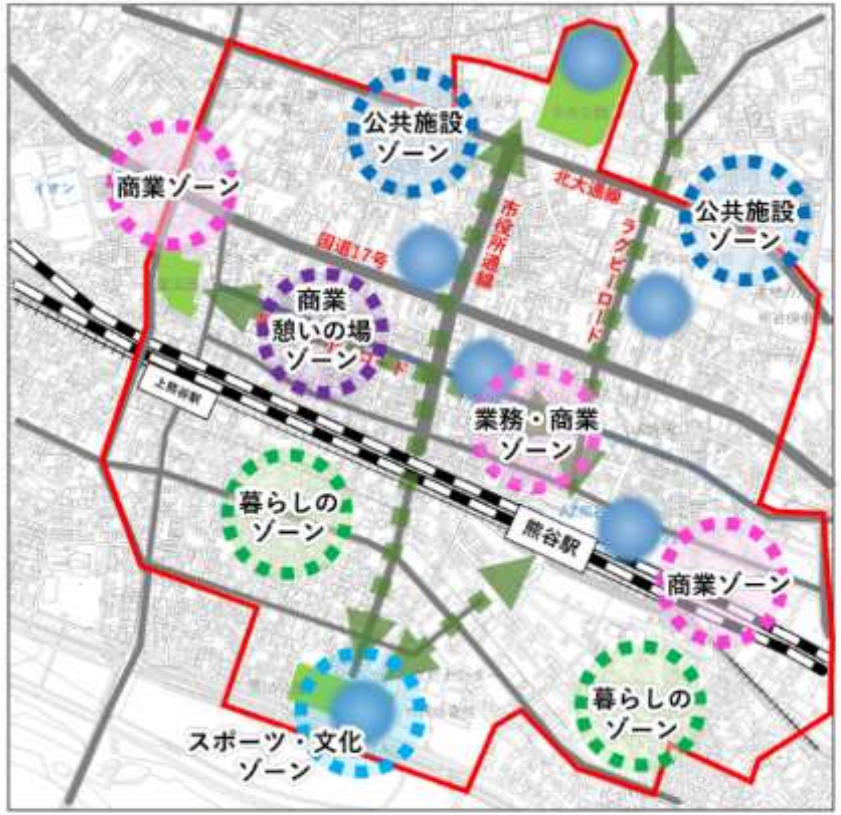
© OpenStreetMap contributors

駅からまちなかへ
（まちなか再生未来ビジョン（熊谷まちなか再生エリアプラットフォーム））

KUMAGAYA SMARTCITY

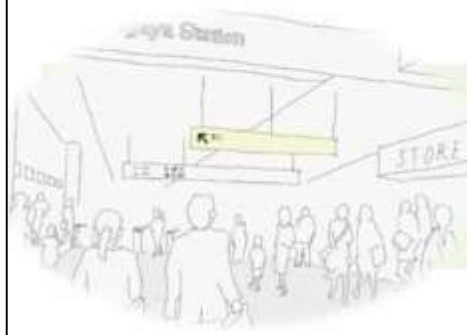
3.熊谷駅周辺エリアの目指す姿

エリアプラットフォームでは、熊谷駅周辺エリアの特性（強み・弱み）を踏まえつつ、目指すべき姿を次のようにまとめました。



POINT 1　駅からまちに　にぎわいを広げる

駅や駅ビルに集まっているにぎわいを、まちなかに広げていくことを目指します。



駅と直結している駅ビル、商業施設が多数立地し、生活に快適な環境が整っているため、駅構内では行き交う人が多くみられます。

駅構内に滞留している人も歩きやすい環境や魅力的な店が駅周辺に増えることで積極的に駅外へ出歩くことが期待できます。





バリアフリー整備やユニバーサルデザインに配慮した整備を検討します。

POINT 2 まちを心地よく歩く・移動する

駅からまちなかへの人の流れを、公共施設などの拠点や魅力的なお店とをネットワーク化することにより、子育て世代や若者に支持されるような快適で居心地の良いウォーカブルなまちを官民連携で目指します。



歩きたくなる魅力的なまちなかを形成するために、景観の向上を図ります。路面の修繕も計画的に行います。

まちなかでの人と環境にやさしい道づくりを進めるために、歩行者にとって安全な道路空間を計画的につくっていきます。





まちなかの回遊性の向上を図るため、公共交通を補完する環境に配慮した新たなモビリティの導入の検討を進めていきます。

POINT 3 まちなかで心地よく憩う

駅からまちなかに広がった人の流れを、各スポット（公共施設、教育機関、スポーツ施設など）をはじめ、動線上に長く滞在してもらうために、心地がよく、みんなの活動や交流ができるような魅力ある居場所の充実を、官民に加え大学とも連携して目指します。



人の流れの動線上で長く滞在してもらうために広い歩道など公共空間を利活用したプロジェクトを進めていきます。

子育て世代の応援、みんなの活動や交流ができるような魅力ある居場所を充実させていきます。





店先のオーニングなど、駅からまちなかに広がった人々が心地よく憩う空間を作っていきます。

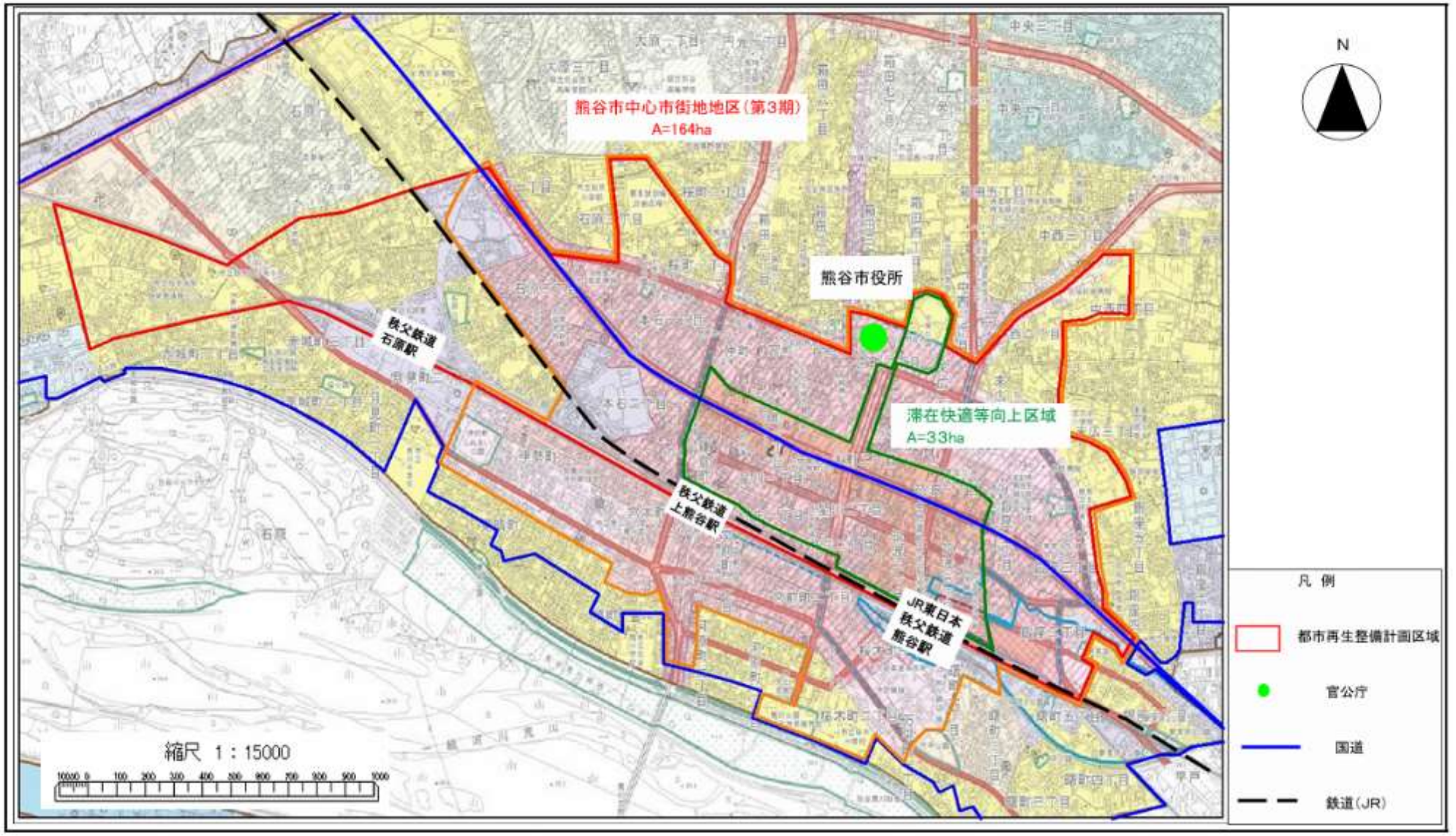
まちなかウォーカブル推進事業を実施する滞在快適等向上区域

KUMAGAYA SMARTCITY

都市再生整備計画の区域

様式(1)-⑥

熊谷市中心市街地地区(第3期)	面積	164 ha	区域	筑波一丁目～三丁目、銀座一丁目、三丁目、本町一丁目、二丁目、星川一丁目、二丁目、弥生一丁目、二丁目、本石一丁目、石原二丁目の全部と本石二丁目、銀座二丁目、宮町一丁目、二丁目、石原の一部

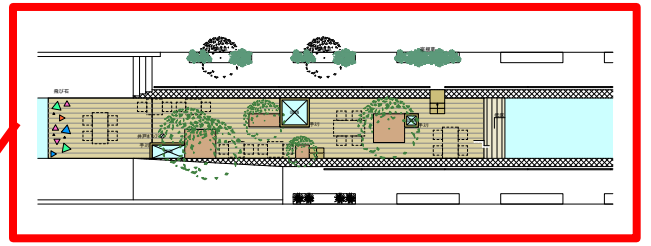


星川：まちなかにおける公民連携・暫定利用の実践空間として活用





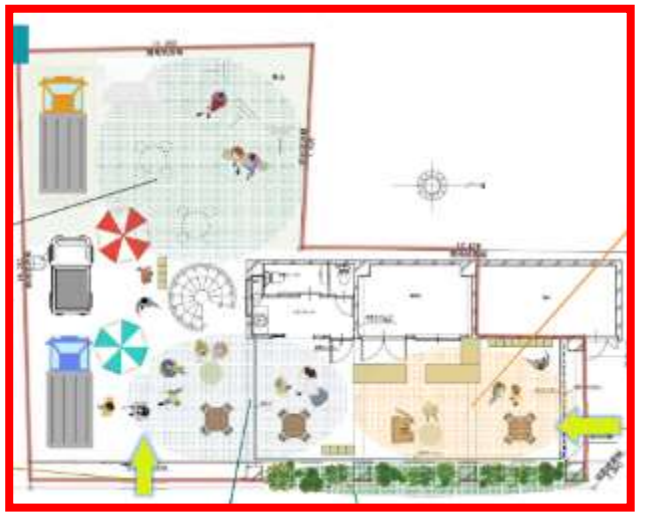
星川周辺の動き
- 公有財産
- NEXT商店街事業
- 熊谷市空き店舗等活用支援事業費補助金
- 官民連携まちなか再生推進事業
- 熊谷・街・妄想ワークショップ



（仮称）星川上流川床



星川広場親水空間



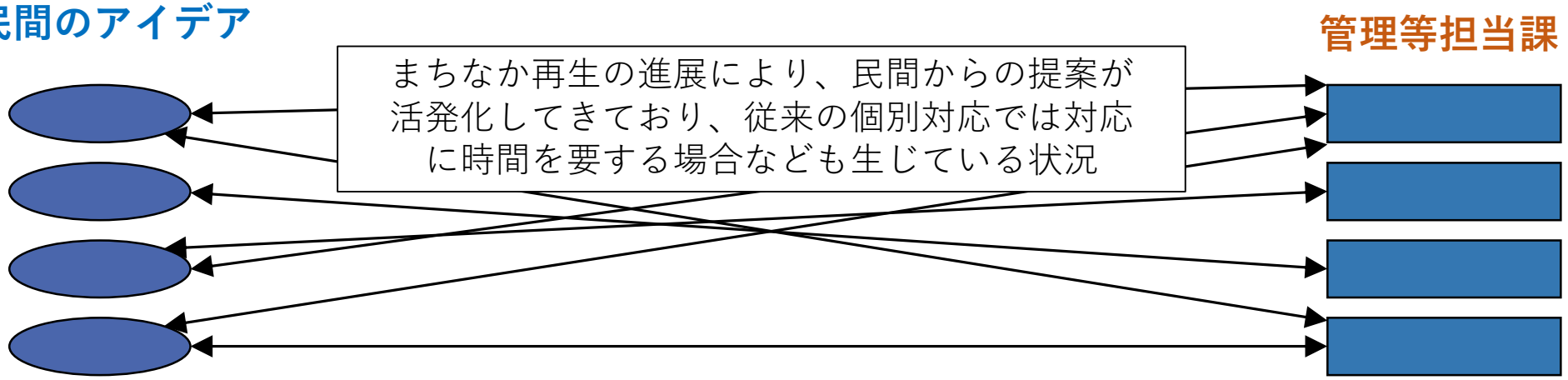
（筑波二丁目市有施設）

グランドフロア滞在交流拠点
「I TO MA」
＋
（仮称）「ロボくまロフト」

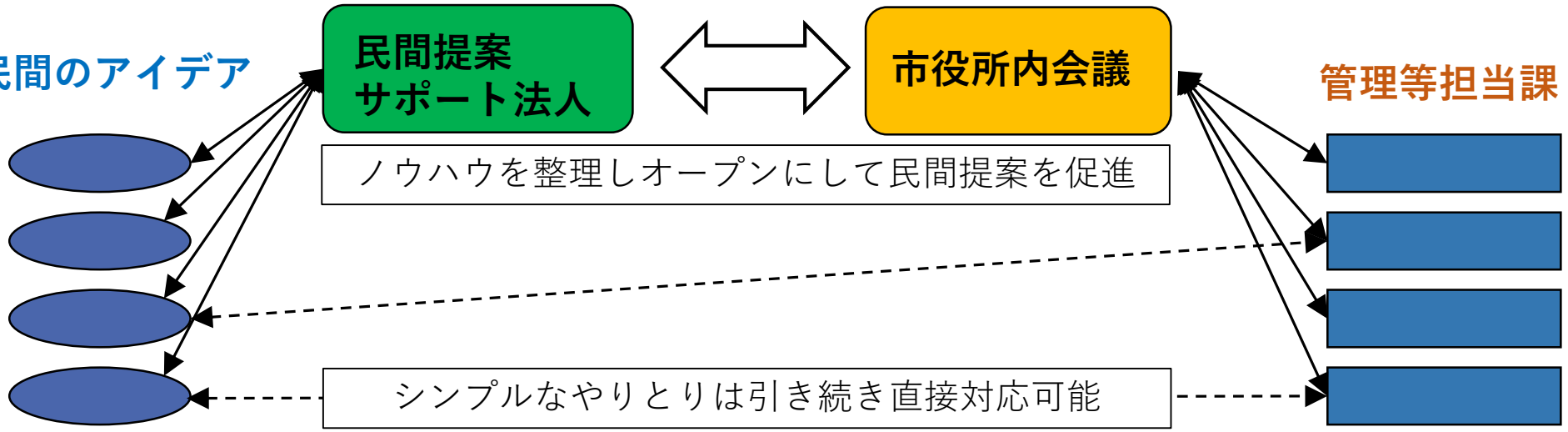
まちなかの資産（アセット）の運用の考え方（R8年度本格実施を想定）

KUMAGAYA SMARTCITY

【従来】



【今後】

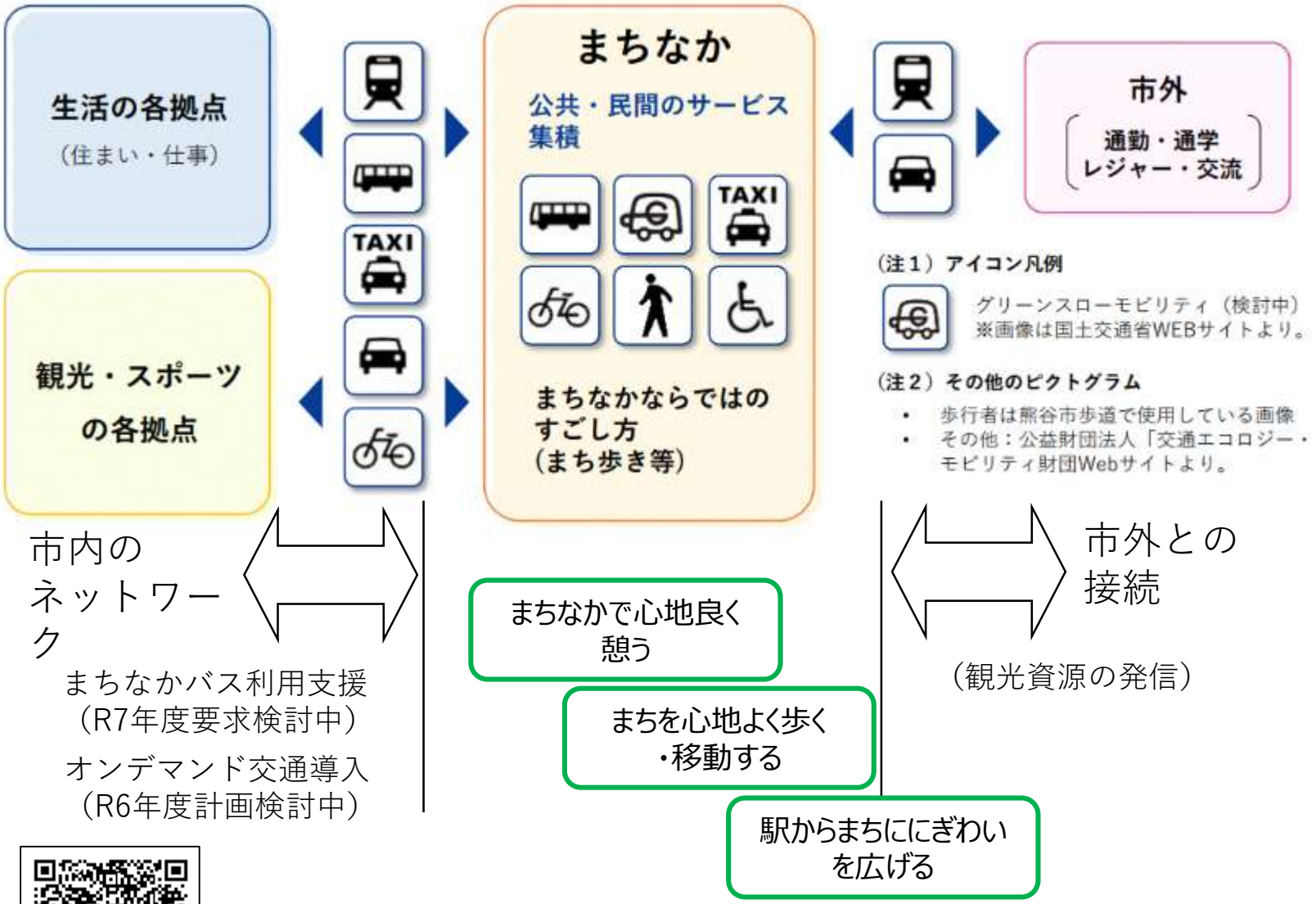


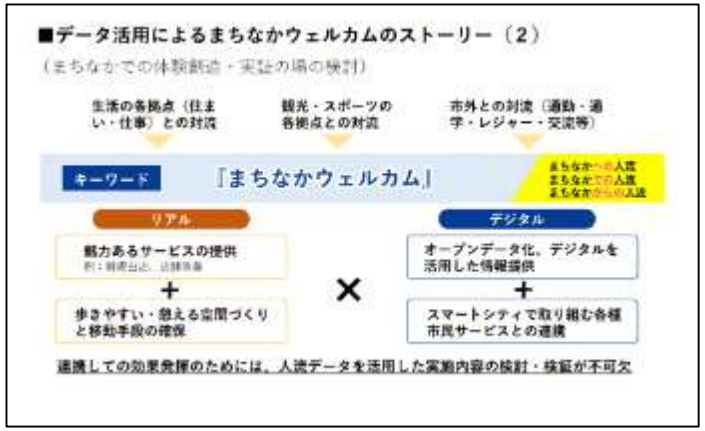
民間提案サポート法人として、当面は（一般社団法人）まちなかコミュニティアセットマネジメントを想定。

【2】まちづくりと公共交通・モビリティ

まちなかの交通機能の発揮とまちづくりの連動（まちなかウェルカム）

KUMAGAYA SMARTCITY





熊谷市公民連携まちづくり実践方針

https://www.city.kumagaya.lg.jp/about/keikaku/matidukuri/kouminrenkei.html

凡例：

出典：熊谷まちなか再生未来ビジョン　将来像実現のポイント

https://kumagayasaisei.wixsite.com/mysite/%E3%81%8A%E7%9F%A5%E3%82%89%E3%81%9B

令和６年度第二回データ活用部会資料において「【３】（３）まちなかウェルカム交通ビジョンについて」として時点案を公表

「まちなかウェルカム」を実現する、「熊谷版モビリティフレンドリーなまちづくり」の考え方（案）

・モビリティの「利用の楽しみ」の要素を加味しつつ、グリーンスローモビリティ、電動シェアサイクル、近い将来には全自動モビリティも選択肢に、移動の経済効率のみでなく、楽しさ、環境負荷の低減、健康増進などの価値を組み合わせて持続可能な移動支援を考える、マルチモーダルなまちづくりに取り組み。

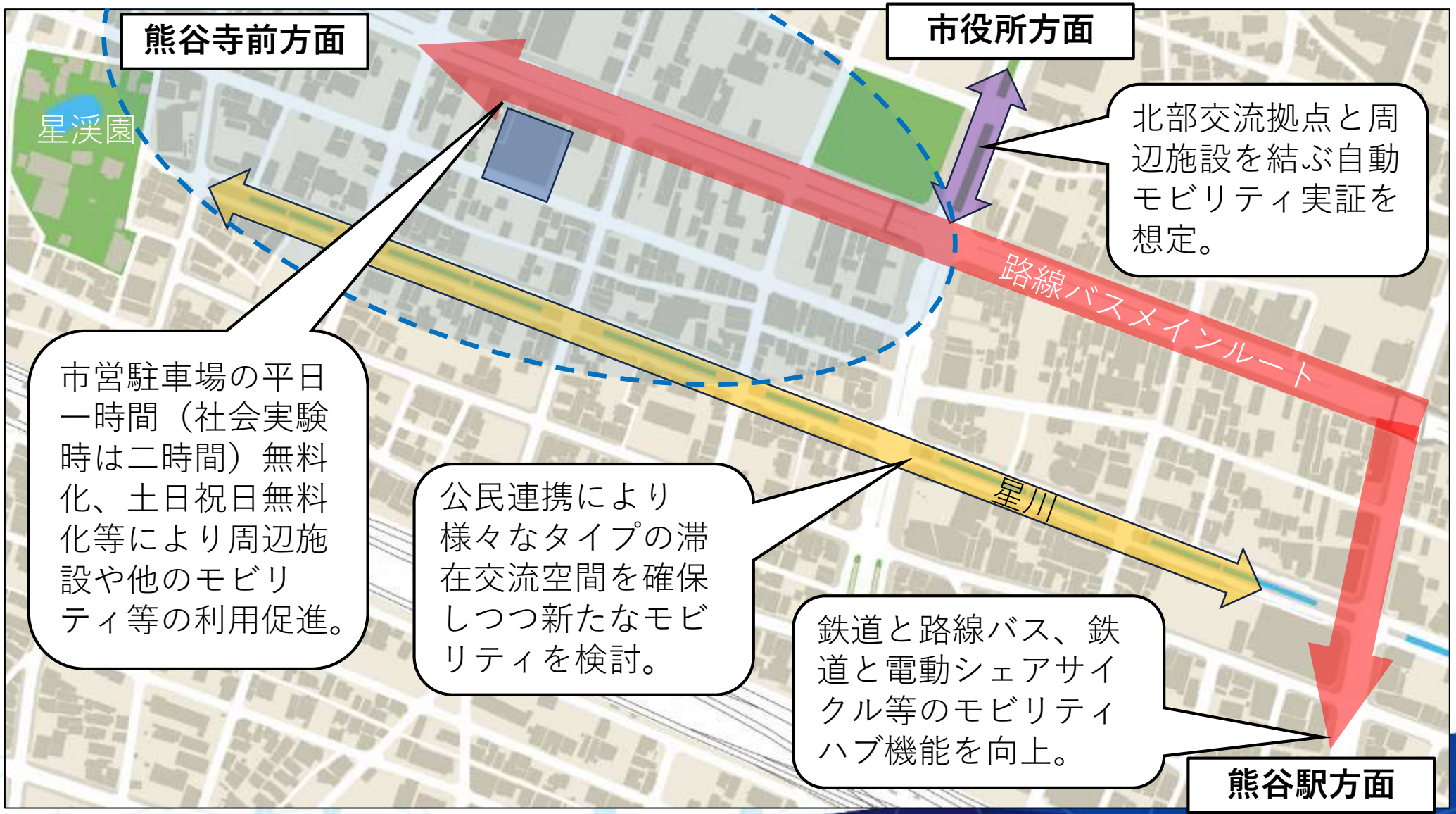
・合わせて、まちの側に様々なタイプの「モビリティハブ機能」を埋め込み・強化。
【取組の例】
　・鉄道と路線バスを結ぶ熊谷駅北口路面に大型の乗り換えマップを掲示。
　・自家用車とまち歩きを結ぶ市営本町駐車場の一時間無料化、第二第四土曜日の無料化。
　　（まちなかの社会実験の際には二時間無料化を実施。）

・広域交通との連携にも配慮。路線バスとゆうゆうバス（コミュニティバス）の接続の快適性の向上などに向けた熊谷市における「バス待ちスポット」の設定を検討。

・熊谷スマートシティにおける「ロボット実証サポート都市」の検討との融合を視野に検討。
（熊谷市中央公園におけるロボットの運用実証等を検討中。）

「熊谷版モビリティフレンドリーなまちづくり」の実現イメージ

（星川将来ビジョン（R6年3月）と「まちなか交通ウェルカムビジョン」（R7年９月予定）が一体となり、まちなか再生の実現を確実なものとする。）



（参考）まちなか交通ウェルカムビジョンにおけるモビリティへの着眼点

〇「交通」（transport：トランスポート）に求められることは、安全で安心・快適に空間的な距離を克服すること。

〇一方で、モビリティ（Mobility）は日本語に訳すと「移動」「移動性」あるいは「動きやすさ」となる。また、移動手段・移動の道具についてもモビリティという言葉が使われることがある。
（MaaSとはMobility as a Serviceの略で、ここでもモビリティが使われている。これは、様々な移動の手段・サービスを統合してルート検索・予約・決済などをスマホなどで手軽に行なうことが期待されているもの。）

〇熊谷市が「まちなかウェルカム交通ビジョン」で取り扱う「モビリティ」は一般的に「交通」で求められる時間や費用の最小化だけでなく、個人の移動への多様な希望についても意義があると考えるもの。
そうした移動についても支える仕組みを考えるものと定義。
すなわち、移動について市民・来訪者に多様な選択肢を提示することで、移動そのものに価値を見いだすことを期待するもの。

〇モビリティを充実することで関わり合いのある分野として、まちの魅力化、地域コミュニティの形成、日常生活の充実、医療・健康・福祉、防災、行政サービス、教育・文化、産業・雇用、などの様々なものが考えられる。

都市の活力と魅力を生み出す新たな交通のカタチ

KUMAGAYA SMARTCITY

- 新たな交通のカタチとして、全国各地に様々なモビリティが登場
  - まちづくりの中で“活力と魅力を生み出すデバイス（装置）”として期待
  - まちなかにおける「ちょっとの移動が楽しくなる仕組み」、「移動支援」に適したモビリティとして、『グリーンスローモビリティ』に着目。

	パーソナルモビリティ	ベンチ型車両	カート型・バス型車両
イメージ	 WHILL Model F  UNI-ONE  Segway PT i2 SE  C⁺walk	 iino type-R PARTNER MOBILITY ONE   三宿モバイルパークレット	ヤマハ(株)製車両   モビリティワークス(株)製車両 シンクトゥギャザー(株)製車両 
主な特徴	• 主に1～2人乗り • 近距離低速移動に適する • 貸出・返却用ポートが必要	• 複数人乗り • 移動自体よりも移動体験や滞在に適する	• 定員 複数人～10人以上 • 公道走行可能だが低速のため短区間の回遊に向く

出典：WHILL(株)HP、本田技研工業(株)HP、セグウェイHP、トヨタ自動車(株)HP、ゲキダンイイノ(合)HP、パーソルクロステクノロジー(株)HP、ヤマハ発動機(株)HP、ヤマハ(株)HP、モビリティワークス(株)HP、シンクトゥギャザー(株)HP

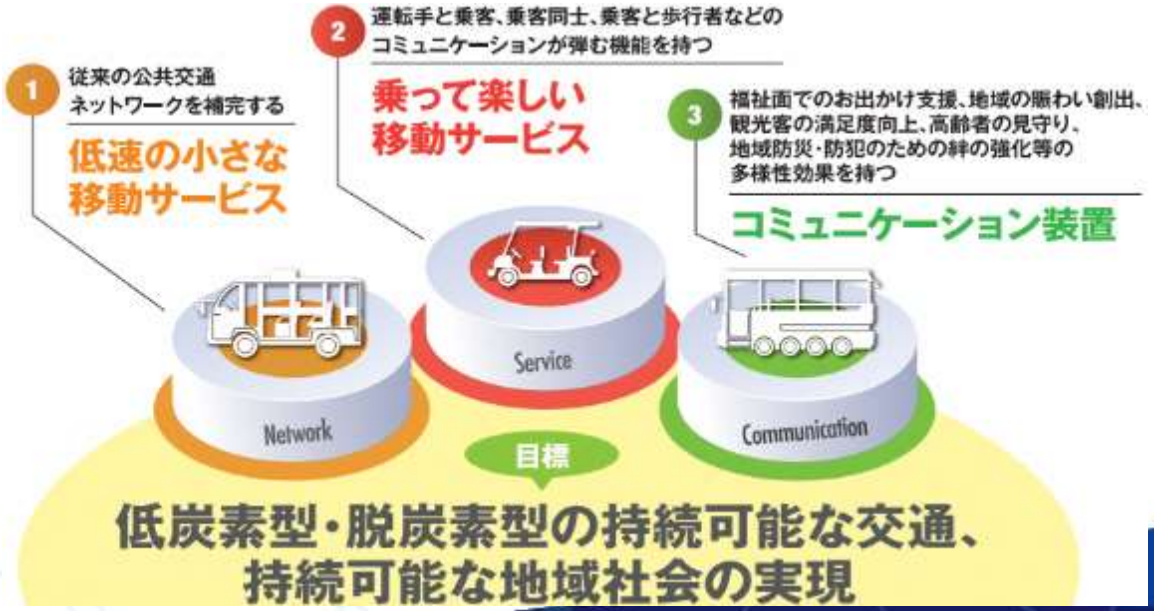
（参考）R7年度：星川通線グリーンスローモビリティ走行社会実験 ：目的

社会実験の目的

- 熊谷市の将来のあり方を見据えた公民連携・交通まちづくりの視点から、まちなかの移動性・回遊性を向上し、新たなモビリティの導入可能性を探ることを目的として、実証運行を実施します。

今回使用する「グリーンスローモビリティ（通称：グリスロ）」とは

- 時速20km未満で走行する電動車を活用した小さな移動サービス及び車両
- 環境に優しいだけでなく、低速走行により車内外でのコミュニケーションが期待



（参考）R7年度：星川通線グリーンスローモビリティ走行社会実験：運行車両

KUMAGAYA SMARTCITY

- 2車種のグリーンスローモビリティが運行
  - 前半　9月27日(土)～10月11日(土) ： カート型
  - 後半 10月12日(日)～10月26日(日) ： バス型



▲ カート型（ヤマハ発動機製「AR-07」）



▲ バス型（シンクトゥギャザー製「e-COM4」）

（参考）R7年度：星川通線グリーンスローモビリティ走行社会実験：運行ルート

KUMAGAYA SMARTCITY

・運行期間　：2025年9月27日（土）～2025年10月26日（日）
・運行ルート　：星川通り内緑の広場～星渓園正門間を巡回運行



<運行ルート>

交通社会実験と公民連携まちづくりの融合（東側）

まちなかウェルカム交通ビジョンを策定中

グリーンスローモビリティ(グリスロ)社会実験（R7年秋予定）




カート型及びバス型のイメージ

クロスシンボルロードシンポジウム（R7年夏開催予定）

地域の公民連携の取組に関する公共物広告の特例（市条例）



R6年12月～R7年3月 星川イルミネーション

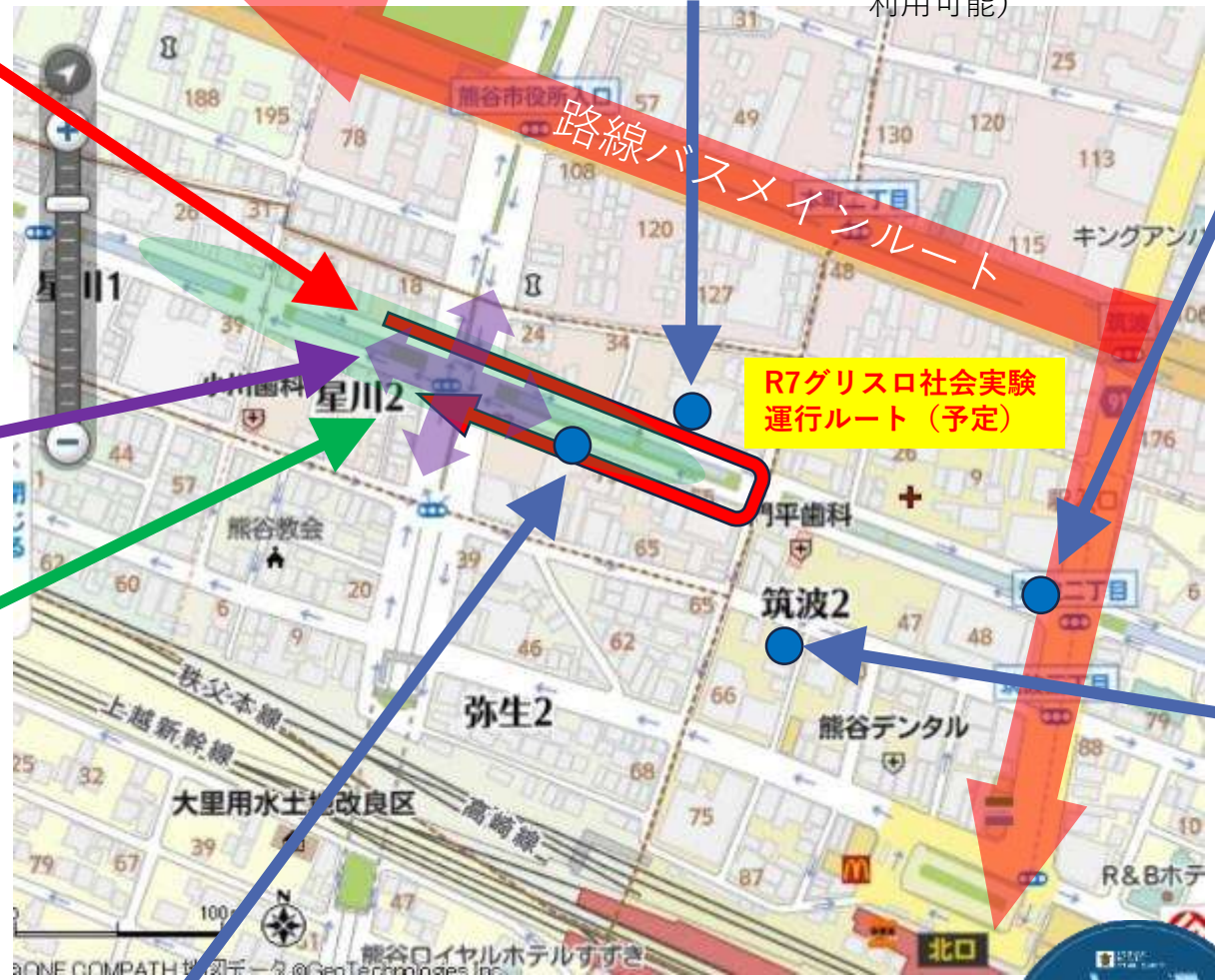


広告料が経費に充当される広告の許可

民間ビル内に公共トイレ・授乳室を整備

ビルオープン時（９～２１時）に利用可能）





車止め兼用ベンチの試験的設置



熊谷駅北口公共交通案内充実（R7年秋予定）



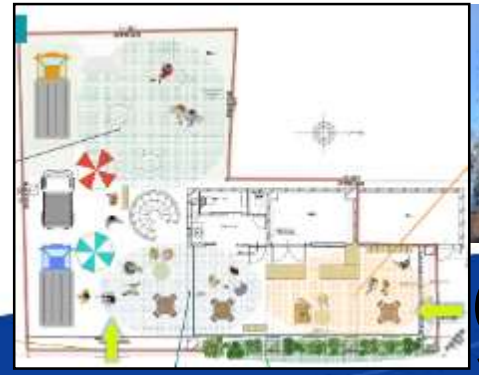

星川広場の大型ベンチ、ステージ等の滞在交流空間





滞在交流拠点「I TO MA」

（R7年９月プレオープン予定）




交通社会実験と公民連携まちづくりの融合（西側）

（準備中）星川周遊マップ（R7公共交通利用促進キャンペーン・R7グリスロ社会実験と連動）

まちなか交流広場の活用・Ｒ７年度以降、スマートキーボックスによりさらにまちに開き有効活用する予定。

市営本町駐車場の１時間無料設定（R7年度～月２回無料等）により**チョイ散歩の増加**

熊谷版Decidim「ツノルバ」で活用アイデアを募集。

星渓園市民活用企画
市民アンケートの結果を踏まえ、休憩・喫茶・映えスポット等の社会実験をR7年秋に実施予定。

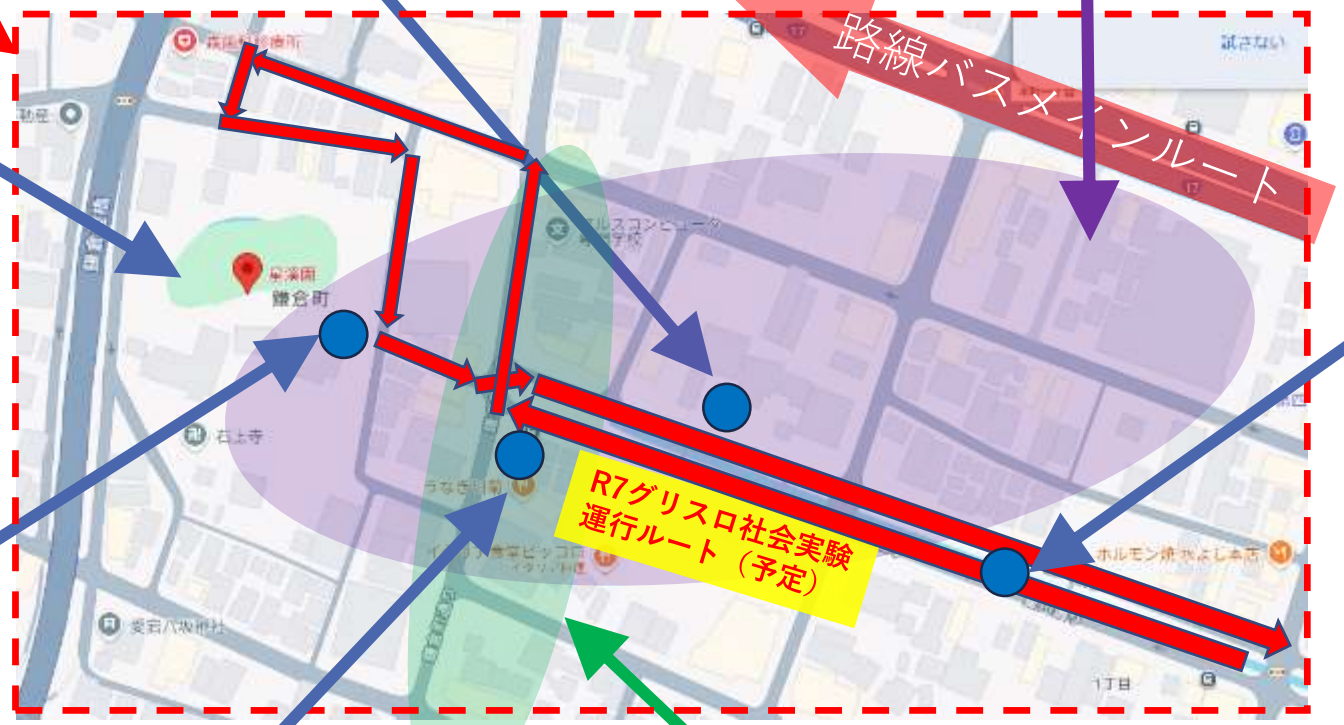
星渓園石碑案内作成



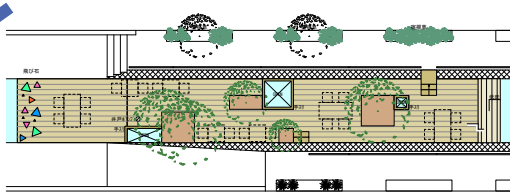
星渓園東門周辺活用（R6年５～６月「みずべdeごはん」企画）



・訪問者や近隣住民の休憩、昼食等に利用可能な休憩スペース設置の実験。



上流の滞在交流空間（川床）の活用







大里用水解説看板更新



鎌倉町通りＷＳの竹あかり





彫像の案内発信の更新



彫像プロムナードWebサイト

（参考）熊谷市役所「公民連携のまちづくり」Webサイトにおける情報発信

KUMAGAYA SMARTCITY

公民連携のまちづくり



各種ビジョン

まず、まちのビジョン（将来像）を市民と共有することが重要と考えています。民間のまちづくり団体等の協力を得たヒアリングやワークショップ・相談会などを行いビジョンに反映しています。
これらのビジョンは最終のご意見を元に随時更新していきたいと考えています。



星川将来ビジョン
地元有志の最終にご協力をいただきながら、学生や民間企業、周辺住人を含めた星川に関わりの深い各種団体に所属する750人のかたに対しアンケートやワークショップを行いました。
そこで得られた意見をもとに、星川の価値、課題を整理し、「星川将来ビジョン」としてまとめました。
星川将来ビジョン（第1版）を公開します：熊谷市ホームページ



熊谷まちなか再生未来ビジョン
2020年から2022年度にかけ、熊谷市、地元企業や団体、立正大学・ものづくり大学・千葉大学の官民学が連携し、月1回の定例会と随時開催されたワーキンググループ（連称：くまちえ）によって、未来ビジョンを策定しました。
「熊谷まちなか再生未来ビジョン」作成：くまがやねっと活報屋！熊谷のことならくまがやねっと（外部サイト）



熊谷スマートシティトータルブランディング方針
熊谷市ではスマートシティとまちづくりを一体的に進めています。市内・市外の最終の共感が得られるスマートシティに向けたブランディング方針をまちづくりのビジョンと同列に位置付けています。
スマートシティ：熊谷市ホームページ

計画



熊谷市中心市街地地区都市再生整備方針
各ビジョンの要素のうち、まちなかを心地よく歩く・移動することに関わる事業については、国土交通省の「まちなかウォーカブル推進事業」に位置づけ、取組を進めています。
都市再生整備計画事業（旧まちづくり交付金事業）：熊谷市ホームページ



令和7年度グリーンスローモビリテモビリティ実証計画
文年度実証実験を行うにあたり、星川の今までのまちづくりを踏まえ、街市事例などもご紹介いただきながら、どのような事体をどのようなルートで走らせてみたいかなど、熊谷らしいモビリティについて意見交換を行っています。
グリーンスローモビリティ勉強会：熊谷市ホームページ

熊谷スマートシティ実行計画
スマートシティに取り組む背景や取組分野を始め、具体的な内容や実施予定時期等を定めた計画です。
都市サービスのポータル（玄関）となる「クマぷら」、暑さ対策情報の要素など、スマートシティの取組をまちづくりと連動させていきます。
スマートシティ：熊谷市ホームページ

まちなか再生における市民参画手法

参加者募集中の"いま"参加できるまちづくり



熊谷版Decidim「ツノルバ」
「ツノルバ」は、星川地区周辺のまちづくりに、市民が主体的に参加し、一緒に未来を作り上げるためのプラットフォームです。「ツノル（暮る）」という名前には、たくさんのアイデアや仲間が集まる場所という意味が込められています。ツノルバを通じて、地域の誰もが気軽にまちづくりに参加し、意見を出し合える環境を作り、自分達の街を自分達で、より良くしていく取組を進めていきましょう！
ツノルバ（外部サイト）



熊谷・街・妄想ワークショップ
市民が自分たちの街を自分たちで妄想し、楽しく快適にしていく動きに繋げる取組です。妄想を通して自分たちの求めている地域の姿を顕在化させて、実際に実験としてプロジェクトを立ち上げています。
熊谷・街・妄想・ワークショップ2024を開催します：熊谷市ホームページ
過去の活動まとめ
熊谷・街・妄想・ワークショップ！note（外部サイト）



コミュニティラボ
市民・企業・団体・学校・市役所が集い、熊谷の未来や、参がかなうまちづくりなどについて、自由な雰囲気で語り合うことができる場所として、2024年8月にスタートした、新しい公民連携の取組です。
コミュニティラボ：熊谷市ホームページ

公民連携まちづくりのツール・事例

まちづくりのツール



エリアマネジメント広告
地域における公共的な取組に要する費用への充当を目的とする広告物の掲出の取扱について周知の細利を行いました。
これにより、地域の活性化や賑わいの創出、公民連携による継続したまちづくりを促進します。
エリアマネジメント広告の表示ができます：熊谷市ホームページ



「熊谷市タウンマネジメント活動証明書」の発行
市民活動団体等と市が連携して行う、または市が公募等により行うまちづくり活動にボランティアとして参加したかたを対象に、市が「タウンマネジメント活動証明書」を交付します。
この「タウンマネジメント活動証明書」により、活動に参加したことが形に残り、自主的かつ継続的な市民のまちづくり活動参加のきっかけを作り、熊谷市における市民参画のまちづくりの促進につなげることを目的としています。
「熊谷市タウンマネジメント活動証明書」の交付について：熊谷市ホームページ



まちなか交流広場
平成20年にまちなかの活性化を目的にオープンして以来、毎日様々な団体が入れ替わり立ち替わりイベントを開催しています。ワークショップの開催も大歓迎です。
まちなか交流広場をご利用ください！：熊谷市ホームページ

まちづくりの事例

公有財産の民間ノウハウによる活用



星川における交流場整備
星川将来ビジョンで人々が川沿いで憩える場所が必要であると方針が定まったことから、「どのような場所なら立ち寄りたいか」を周辺の学生や活動団体と意見交換をし、渡辺場を新たに整備しました。



筑波二丁目市有財産の一階暫定利用の取組
市有の物件を社会実験として公民が連携し、熊谷駅と星川周辺地域を中継する交流・滞在のための拠点の整備を進めています。
熊谷市公有財産（筑波二丁目）1階部分暫定利用に係る民間提案事業：熊谷市ホームページ

民間財産の公共的な活用



民間トイレ公衆向け改修
「星川沿いにトイレがほしい」という市民の協議の声を受け、一般社団法人 熊谷まちなか再生エリアプラットフォームが主体となり、星川沿いに新しくトイレを整備しました。
星川に新たにトイレを整備しました！：熊谷市ホームページ



学生交流拠点
一般社団法人 熊谷まちなか再生エリアプラットフォームが主体となり、民家をリノベーションし、学生寮と学生所留場が一体となった学生交流拠点を整備しました。
令和7年2月に完成予定。

【３】個人情報を守りつつデータを活用する都市で生まれる新しい楽しみ方

約５万人が参加する市民サービス「クマぶら」を情報発信・収集に活用

KUMAGAYA SMARTCITY

「クマぶら」を入口に、市民の様々な活動をアシストする情報・サービスを提供

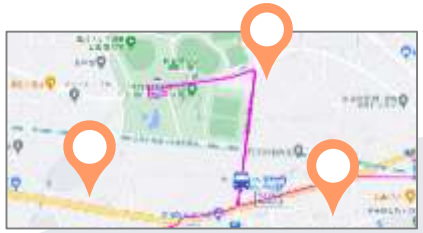
コモンデータ*1の蓄積・更新と住民参加の好循環へ

都市活動をアシストするデータ提供
（暑さ対策スマートパッケージなど）

気象（温熱環境等）
シミュレーション



バス位置情報
店舗等位置情報



スマホ回数券
（コミュニティバス）





都市サービスポータル
（クマぶら）

デジタルコミュニティツール
＋Webコモンスペース

地域電子マネー・
コミュニティポイント



クラウドラボ等の
Webコモンスペース



データ連携基盤

各アプリの連携･オプトイン（データ利用同意）により提供されたデータ分析によるサービスの向上

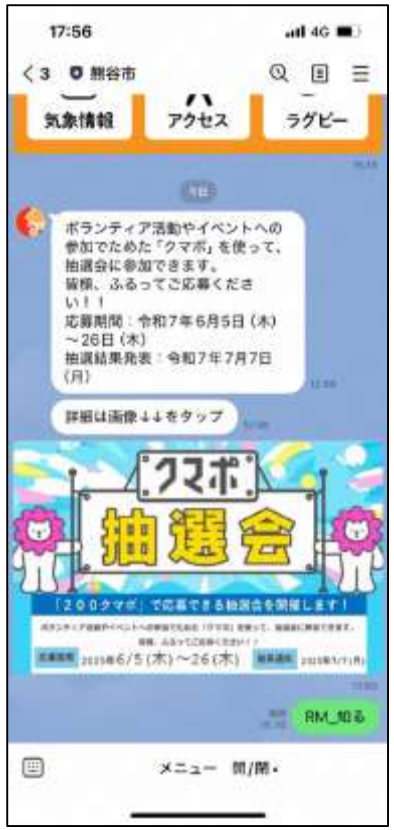
コモンデータ＊1　「誰でもデータ作成に関われる仕組みの考え方」を検討する上での用語としてデータ活用部会（熊谷スマートシティ推進協議会）において使用

クマぶら用語のイメージ：プッシュ配信については「デジタル」「スポーツ」を中心に据えつつ、ユーザーの属性等に応じた（レコメンド）配信を検討中

クマぶらマップ



プッシュ配信



コンテンツ







「クマぶら」と民間のアプリとの多様な連携の可能性

アプリとシステム連携する？

NO

システム連携外での緩やかな連携
・クマぶらでの周知（プッシュ配信）
・クマぶらマップでの表示
・クマポがもらえるQRコードの設置
※こちらからスタートし、翌年度以降システム連携ルートを検討するなどの流れもあり得る。

YES

WEBアプリ

クマぶらから（も）リンク
・クマぶらからのアクセスに限定しない。クマぶらからどんな属性の方が何回リンクを踏んだかは把握可能。アクセス数向上に資する。

クマぶらから（のみ）リンク
（例：人流×暑熱データ（予定））
・他ではURLを公開しない。（ほぼ）クマぶらからの流入に限ることができる。上と同様リンクを踏んだところまでは把握可能。実際の利用者の属性分布が（ほぼ）把握できる。

クマぶらからの接続に限定
（例：クマポプレイス）
・OAuthなどの仕組みを利用してクマぶら以外からの接続を不可とする。主にアプリ側に開発が必要だが、利用者のLINE IDを把握でき、クマぶらの属性のほか、クマPAYの利用データ等とアプリ利用データの横断的な分析が可能となる。→クマポプレイスでは未実施だが、開発によってPDSへの格納も可能か。

ネイティブアプリ

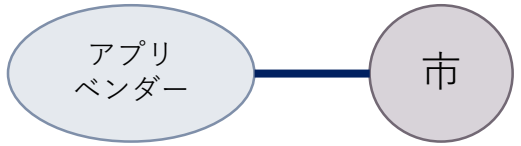
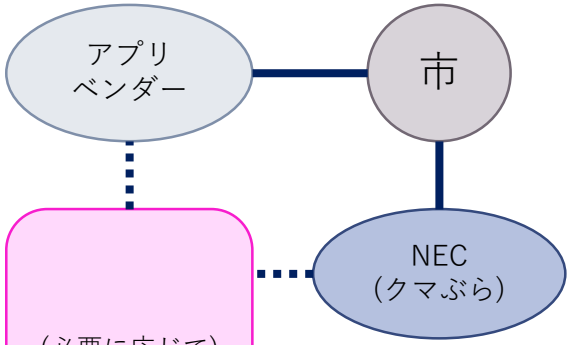
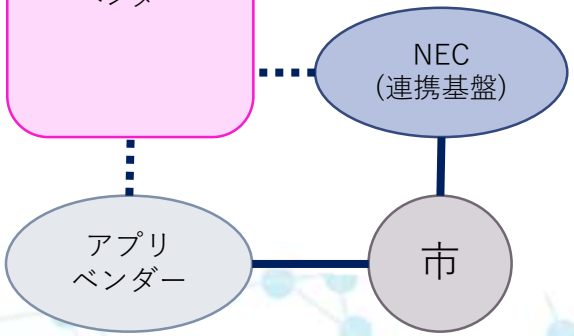
アプリ側でLINE ID連携の開発を行う
（例：ALKOO（未実施））
・アプリの利用データとクマぶらのLINE IDを連携した上で、PDSに格納する。クマぶらの属性のほか、クマPAYの利用データ等とアプリ利用データの横断的な分析が可能となる。アプリの利用に応じたクマポの付与なども可能（PDS格納データから市職員が付与）

LINE ID連携を行う中間システムを利用する
（例：シェアサイクル）
・アプリ側は、API連携による中間システムへのデータ提供のみで連携実施が可能。メリットは上と同様。
利用者はアプリと連携するための手続（アプリIDの手入力など）をクマぶらから初回だけ実施し、その後は通常どおりアプリを利用するだけでOK

クマぶらからアプリの起動orアップストア等へ案内
（例：なし（未実施））
・クマぶらにボタンを設置し、アプリダウンロード済みの方はアプリを起動、未ダウンロードの方はダウンロードできるアップストア等へ遷移させる。 LINE ID連携はされていないため、データ分析等は不可。どんな属性の方が何回タップしたかは把握可能

民間のアプリを活用した取組との連携の議論プロセス

KUMAGAYA SMARTCITY

	座組例	ポイント
連携方針の相談		前スライドのように、どんな連携が考えられるかについて、市からアプリベンダーに提示しながら相談していく。
LINE ID連携の相談		LINE ID連携についての双方のメリットなどを説明しながら、市から連携案のたたき台を座組に投げて進めていく。 ※たたき台の作成に当たって、（協力いただけるようであれば）事前にNEC様に相談差し上げるなどしながら進めていくのもOK
基盤連携の相談		データ連携基盤に格納する直接的なメリットはアプリベンダーには無いため、「市との連携の強度アップ」「クマぶら情報とのクロス分析結果の共有」などのメリットを丁寧に説明して、連携に向けて進めていく。

（参考）クマぶらを活用したゲーム性のあるまち歩き促進策（星川まちログGO！）の企画・調整について

星川まちログGO！ とは？

市の公式LINEアプリである「クマぶら」内の機能を活用して、ゲーム性を持たせつつ、まち歩きを促進しながら、まちなかの多様な交通手段についても知っていただこうという企画（9/1実装予定）

コミラボ活用の特色

これまでの施策に比べて、初期の段階（企画の提案段階）から、コミュニティラボの企画・運営階層である【B階層】の中で調整を始めた点

施策の存在を早い段階からコミラボ関係者に広く知ってもらうことで、

- **他の施策と絡めたアイデアを募集する**
- **他の施策にも活用できる部分があれば是非していただく**
- **何なら負担の許す範囲で手伝っていただける方を探してみる**

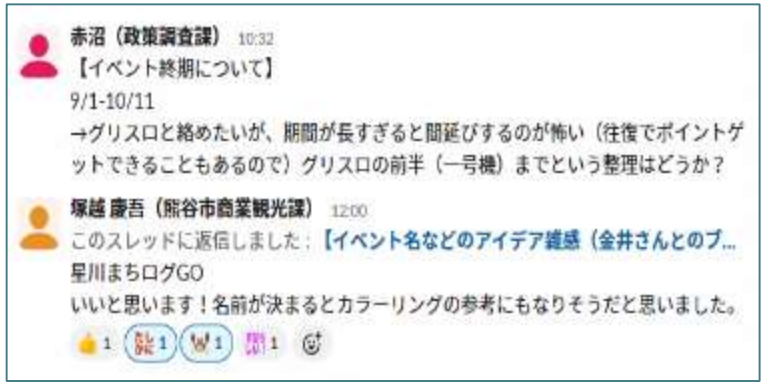
などのことを狙い、B階層で提案をスタートしました。

その結果・・・

同時期に配布予定の「まち歩きマップ」（紙媒体）との連携を図ったり。。。



グリーンスローモビリティの実証実験まで期間を延ばしてミッションを追加したり、イベント名を募集したり。。。



ゲームの素材に使う写真の収集を手伝ってもらったり、ウォークスルーに参加してもらったりできました！



第二部：ヒト・モノ・情報の流れの活性化、イノベーション促進
～まちなかでのヒト・モノ・情報（データ）の流れを円滑にし、多様なマッチングの機会を提供することで、創業やイノベーションを促進

【１】スマートシティの先に目指すべき産業創出の形

１.熊谷スマートシティにおける「新産業の可能性共創」

２.スマートシティの新時代産業と産業・人材・人口移動の新たな解づくり

３.スマートクールシティの取組み

４.「ロボくま」の取組み

3.スマートクールシティの取組み

（快晴率・暑さに特徴のある熊谷において
デジタル・スマート技術を活用し
暑さ対策の発信力をリブランディング）

「気象観測・データ活用」に関する実装の状況①

KUMAGAYA SMARTCITY

気象シミュレーション範囲図
・シミュレーション範囲
熊谷駅を中心に徒歩15分圏内約２Ｋｍ四方





Ｒ５年度　ＬＯＤ２整備範囲図
熊谷駅周辺エリア
（面積：0.6㎢　建物：2,100棟）

熊谷駅周辺の市街地８か所に気象センサーを設置し、
３Ｄ都市モデルを用いた気象シミュレーションを実施

熊谷市暑さ対策スマートパッケージの機能

コミュニティポイント
ボーナス付与



コミュニティポイントが獲得できるクールシェアスポットを近い順に表示

クールシェアスポット
協調表示



クールシェアスポットの場所・詳細情報の確認などができます。

まちなかヒートエリア
可視化

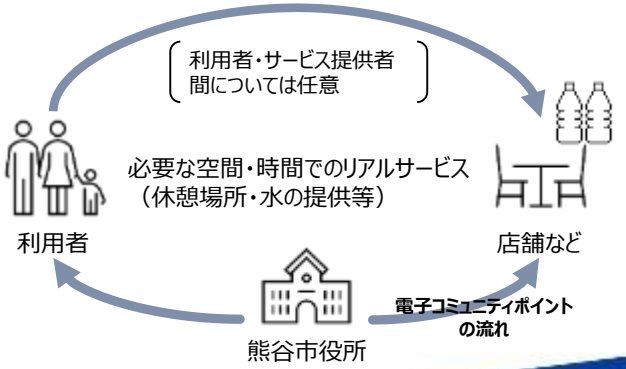


温熱環境シミュレーションの結果を表示し、相対的に暑いエリアが把握できます。



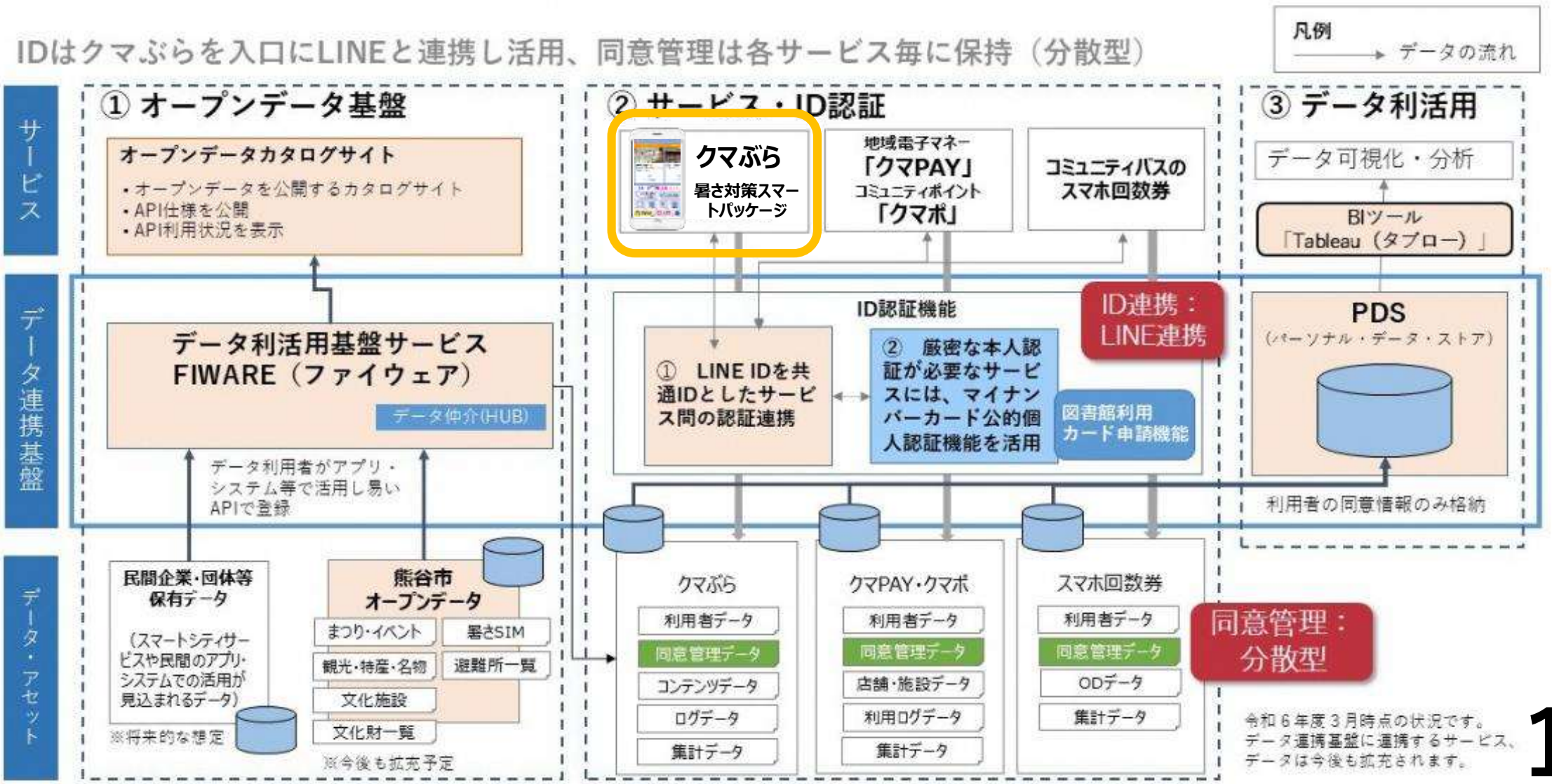
スマホサービス
（クマぶら）

クマポを行動変容に活用



市民・来訪者と店舗がWin-Winのまちなかウェルカム

「気象観測・データ活用」に関する実装の状況②
～データ連携基盤システムと接続することで多様なデータ活用が可能



（参考）「気象観測・データ活用・クールアイデア」の実践（R6年度）①

暑さ対策をテーマに“市民自らが”対策を立案し、観測データを取得・共有する取組としてスタート









市民自ら考えた
アイデアの実践



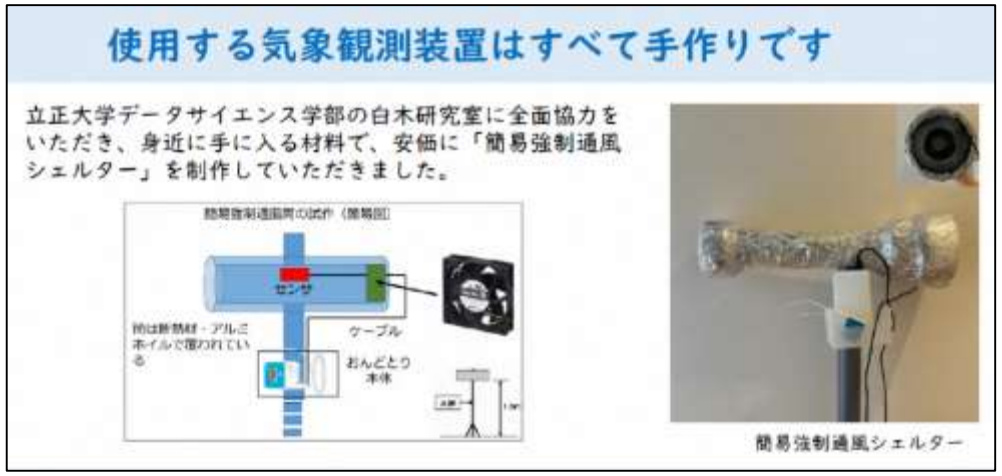


ワークショップにおける気象観測フィールドワーク実施時のプレスリリース

（参考）「気象観測・データ活用・クールアイデア」の実践（R6年度）②

KUMAGAYA SMARTCITY

気象観測装置を適切に用いて気温データを取得、また補正を行い、研究論文への使用や、
他都市の取組等との客観的な比較が可能なデータを作成し公表を予定



地元の立正大学の協力を得て作成した“手作り”の気象観測装置を使用して測定を実施

市民や大学と連携した
実験の場



観測したその場で学習用ＷＥＢＧＩＳ「カキコまっぷ」に入力しデータ化

オープンガバナンス

Ｒ７年度以降の市のクールシティの取組みに関する想定

- クールシティWSの取組みは、快晴率日本一などの熊谷の地域特性を活かし、暑さ対策に関しての取組みの蓄積を、デジタル社会に向けて、さらにプロモーションしていくクールシティの取組みの一環と考えている。
- Ｒ６年度には、リアルの会場でのＷＳや現場のアクション・観測だけでなく、Ｗｅｂ上のコミュニティラボを通じて、参加者が時間と場所に縛られずに話し合いを継続する取組みに着手。
- Ｒ６年度の経験を活かしてＲ７年度以降、さらに取組みを発展。

【参考】近年の熊谷市における暑さ対策の整理の経緯等

Ｒ４年度
特に取り組むべき暑さ対策として「熱中症対策」「地球温暖化対策」「スマートシティ関係」等を整理。

Ｒ５年度
熊谷スマートシティとしてのトータルブランディング方針を定め、「暑さ対策スマートパッケージ」関係データ等を順次整備。

Ｒ６年度
「暑さ対策スマートパッケージ」の提供と併せ、クールシティWSにより、データ活用等を盛り込んだ新たな市民参画・産学官連携に着手。

熊谷クールシティが強みを維持するための考え方

～熊谷市にとって理想の地点★を目指していくアプローチ～

暑さ対策スマートパッケージなど

新商品の発信に関する連携等

A:暑さ・快晴率の高さがビジネスにつながることを示し発信。

B:スマートシティとしての先進性・総合力の確保（単独都市の政策面のデータ活用だけでなく対民間、複数地域での連携において価値を生む道筋。）

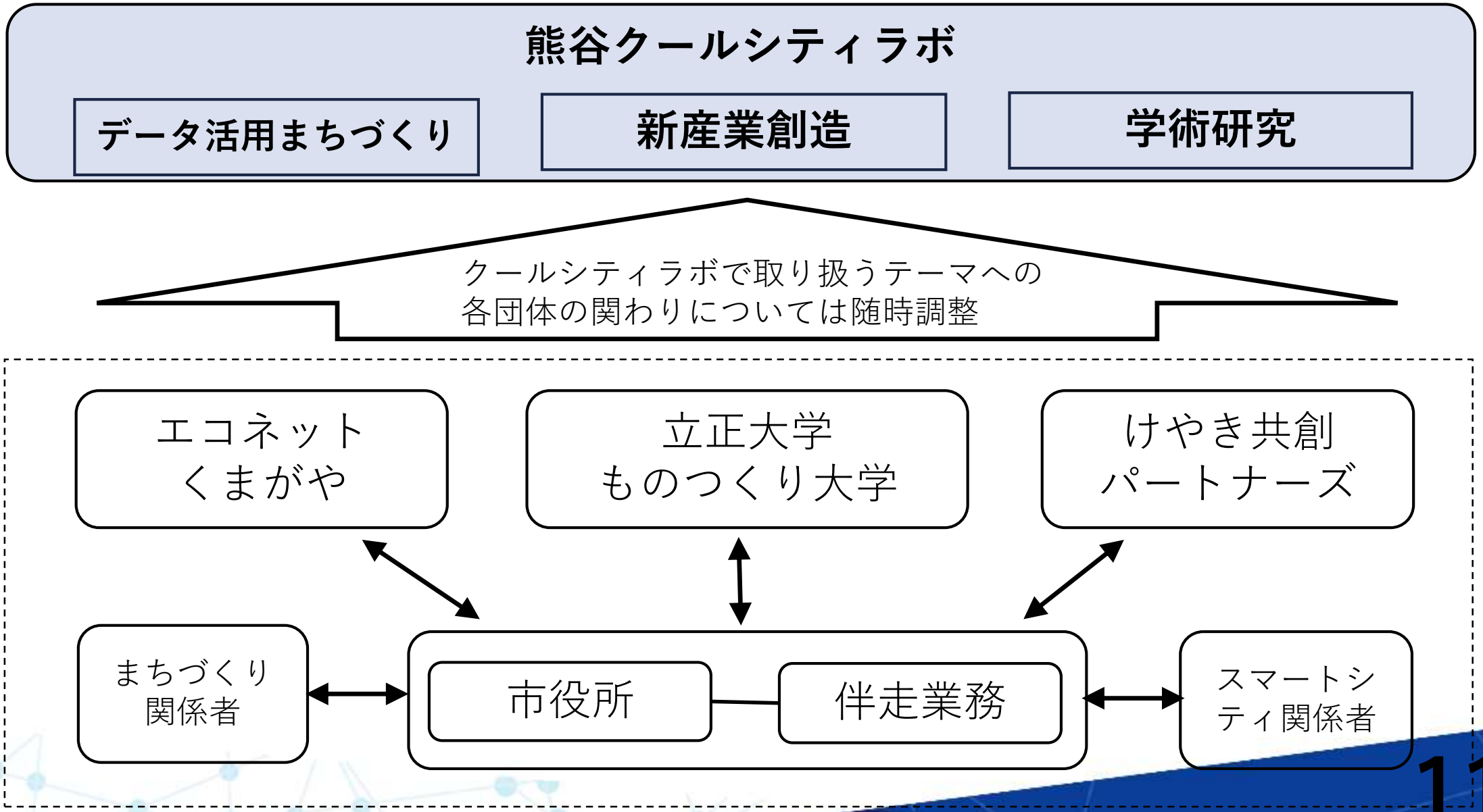
・キーワードは「オープンデータ」「データ連携」
・気象データの取得や処理の仕組みを含む。

C:正確な観測等について支援を得られる機関の立地を活かした連携。（立正大学等）

・産業的な性能評価に結びつけるビジネス系の大学・機関との連携。

様々な手法で得たデータをまちづくりの検討や効果検証に活用

連携のハブとなるNPO法人「熊谷クールシティラボ」（R7年２月登記）



実証されたデータ活用事例等の他都市への展開による熊谷の魅力の発信

「その都市に暮らしたい！」という思い

・エネルギー
・環境対策

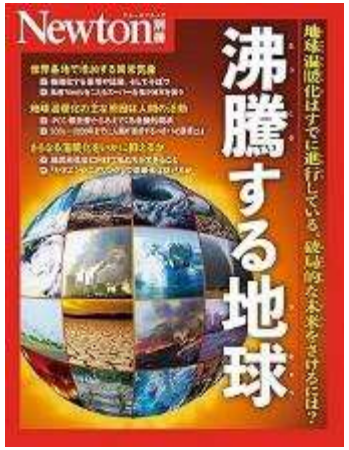


居心地が良く
歩きたくなる
まちなかづくり

熊谷市では
デジタルの力で「安心」を提供し気温コンパチブルなまちづくりを実現する手法の
他都市への提供事業に取り組んでいきます

暑さ対策にデジタルで取り組み、熊谷市のポテンシャルを魅力として発信可能に

【課題】



【対策】 様々なデータやシステムを組み合わせる総合力



×

熊谷の人とコミュニティの力を信じる独自のスマートシティ像の魅力





【発信１】



「JAPAN DX Player AWARD 2024」で熊谷スマートシティが官公庁部門で全国第3位（Ｒ６年９月）

【発信２】



国土交通省がOECD関係者を招いて開催した「建築・都市DX国際セミナー」でつくば市と共に熊谷市のスマートシティを紹介（Ｒ７年２月）

令和７年度のスマートクールシティの取組み体制概要

KUMAGAYA SMARTCITY

【１】スタートアップ企業（事業部門）誘致

【R7年度予定】スタートアップ企業（既存企業の新事業等を含む）に関する実証の提案等を受け付けるWebサイトを公開（注１）。

（注）スタートアップ企業等の事業内容は、「気象データ」、「エネルギー管理」、「熱／CO2吸収」、それらの関連事業等を想定。

【２】［基礎］スマートシティを軸にした暑さ対策のトータルブランディング（上記誘致に即応できる体制の確保）

①【継続】クールシティWS等とからロボットやまちづくりに繋げた要素をそれぞれの業務範囲で有効に活用。

②【R7年度より】暑さ対策連携企業（一般）・熊谷サポーター企業等への対応状況の庁内共有（注２）

（注２）トータルブランディングの観点から、上記のスタートアップ企業等の想定事業の他にも、幅広い熱中症対策（健康面）等の幅広い内容を情報共有することを想定。

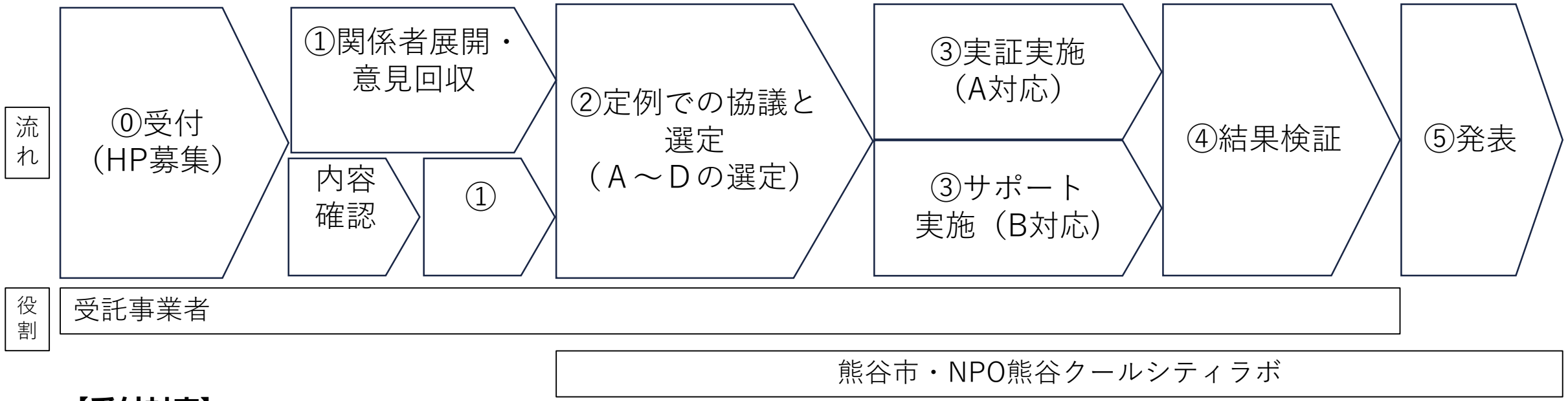
スタートアップ企業
（事業部門）誘致

実証実験の募集と選定のフロー（準備中）

KUMAGAYA SMARTCITY

実証企業の募集と選定

※A～Dについては別頁に詳細を記載



【受付対応】

募集HP・専用応募フォームを開設し、問い合わせ受付と対応します。
（応募期間は５～１０月を想定します。受付後内容確認に１～２か月を要する場合がありますので、早めに問合せをお願いいたします。）

【書類選考】

応募企業に対して、別紙の選抜基準に基づいて選定します。

【面談評価】

事業の熱意や実施条件の確認、長期的な実証後の事業継続性などを確認して、推進の合意を図ります。

４.「ロボくま」の取組み

（熊谷SCキャッチフレーズ「やさしい未来発見都市」、SC宣言「デジタルと人の力で社会を前に進める」を形にする「ロボット実証サポート都市」へ。）

【２】デジタルコミュニティより支えられる市民共創型の社会課題解決

５.デジタルを活用したWebコモンスペースの提供

６.社会の変化に対応する「企画」と「実行」の円滑な循環

７.市民の共感を重視した社会課題解決型のビジネスへの伴走

８.子供・若者に向けた機会の提供（ツールの検討）

５.デジタルを活用したWebコモンスペースの提供

熊谷コミュニティラボの取組み
～ビジネスチャットアプリ「Slack」によるコミュニケーションの加速

これからのサービスの在り方、政策施策の立案には、市民参画、公民連携が不可欠

デジタル技術なども活用し、市民自らまちづくりを考えてもらえる仕組みづくりが必要

熊谷コミュニティラボ（コミュニティ＋ラボ）

人のつながり（コミュニティ）を活かした誰もが自由な雰囲気で語り合うことができ、夢を実現できる場（ラボ）



同じ夢を持つ人と意見交換したいな

シーンスケッチコンテストのこの作品のアイディア面白い！本気で形にしてみよう！

こういうサービスを考えたけど、一緒にやってくれる人いないかな？

コミュニティラボはどんな場所を目指すのか

ラボは、市民、関係団体・市役所が期待する役割を果たすために、
以下の２つの機能を重視した場所として設定される。

共に創る場

・市民共創型PF（３DGIS（公表済み）、まちづくり合意形成システム「ツノルバ」（R6年度実装）等）と共に、熊谷市の理念・目的の実現に向かう支えとしてのラボ。

共に考える場

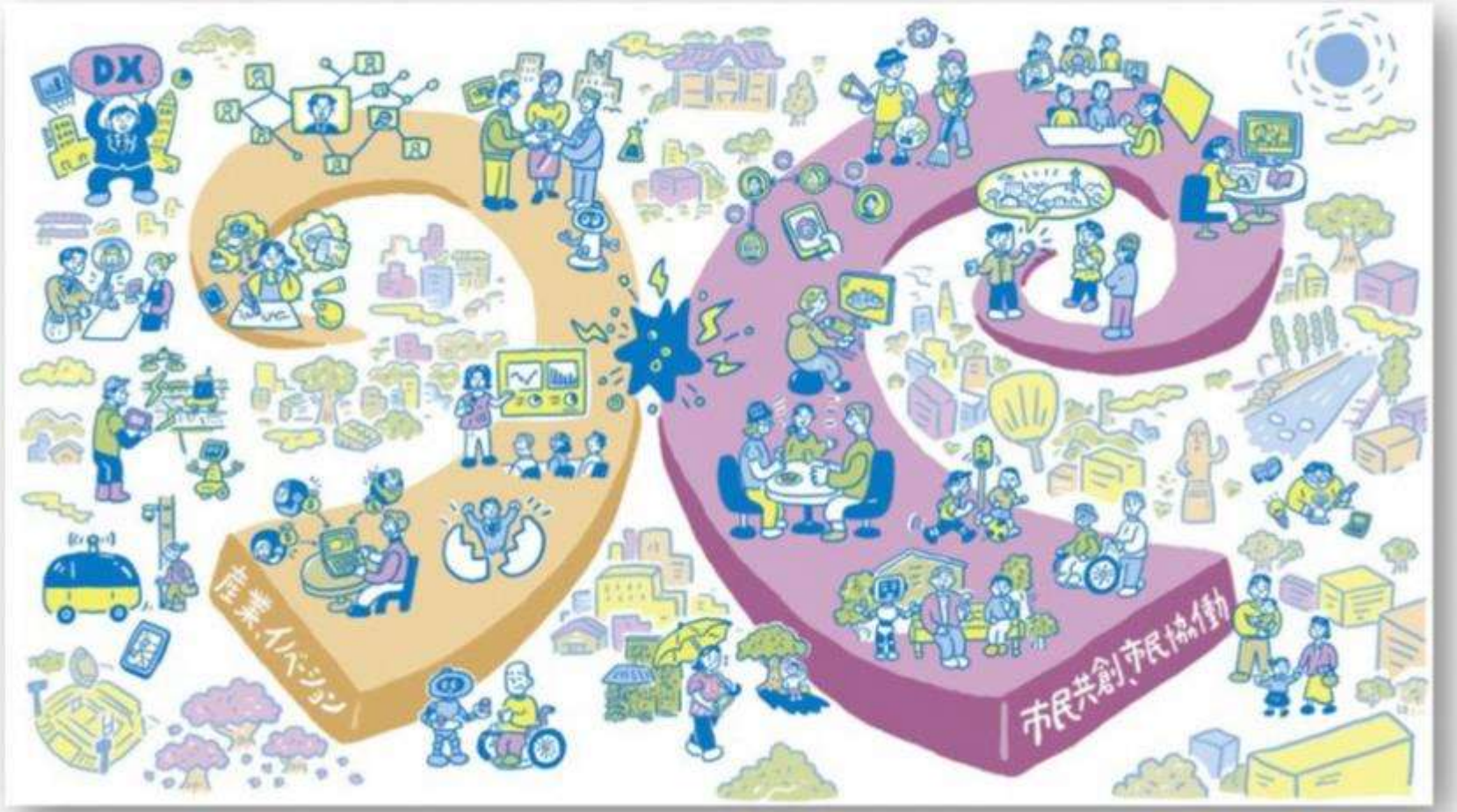
・デジタルを導入することで、市民が自ら楽しみ、発信することのできる場を生み、人口ビジョン・総合戦略にも貢献するラボ。



【目指す方向性の共有（公開）】
「コミュニティラボ」を核とした産業振興・共創

KUMAGAYA SMARTCITY

民間団体と市役所の連携によりウェブ上とリアルの両面で運営



コミュニティラボ コンセプトビジュアル

Slackを活用した
クラウドラボ

- オープンな議論
- データ共有の場
- 共創の加速

市内会場での
リアルラボ

- リアルな会合・体験
- ネットワークづくり

Kumagaya Community Labo

みなさんの「楽しい、嬉しい、ためになる」書き込みを紹介します

コミラボ・ナウ

commulabo_now

2025
02-3

コミラボ・ナウ掲載ページ

チャンネル	クマポの玉手箱
投稿日	2025/2/17　ほか
投稿者	市民活動推進課　さん



Comment

コミュニティポイント「クマポ」の普及・啓発に日々取り組まれている市民活動推進課さんのイベント投稿の数々です。
制度やサービスの普及には、こういった地道な活動が欠かせないですよね。
皆様もぜひ「クマポ」活用の輪に参加していただき、人々がつながるまちを一緒に作りましょう！

熊谷コミュニティラボSlack　企画・運営階層（通称「B階層」）の位置づけ

KUMAGAYA SMARTCITY

オープン階層（A階層）

ハンドルネームで自由に入っていただける空間。
（皆で使うガイドラインには従っていただく。）

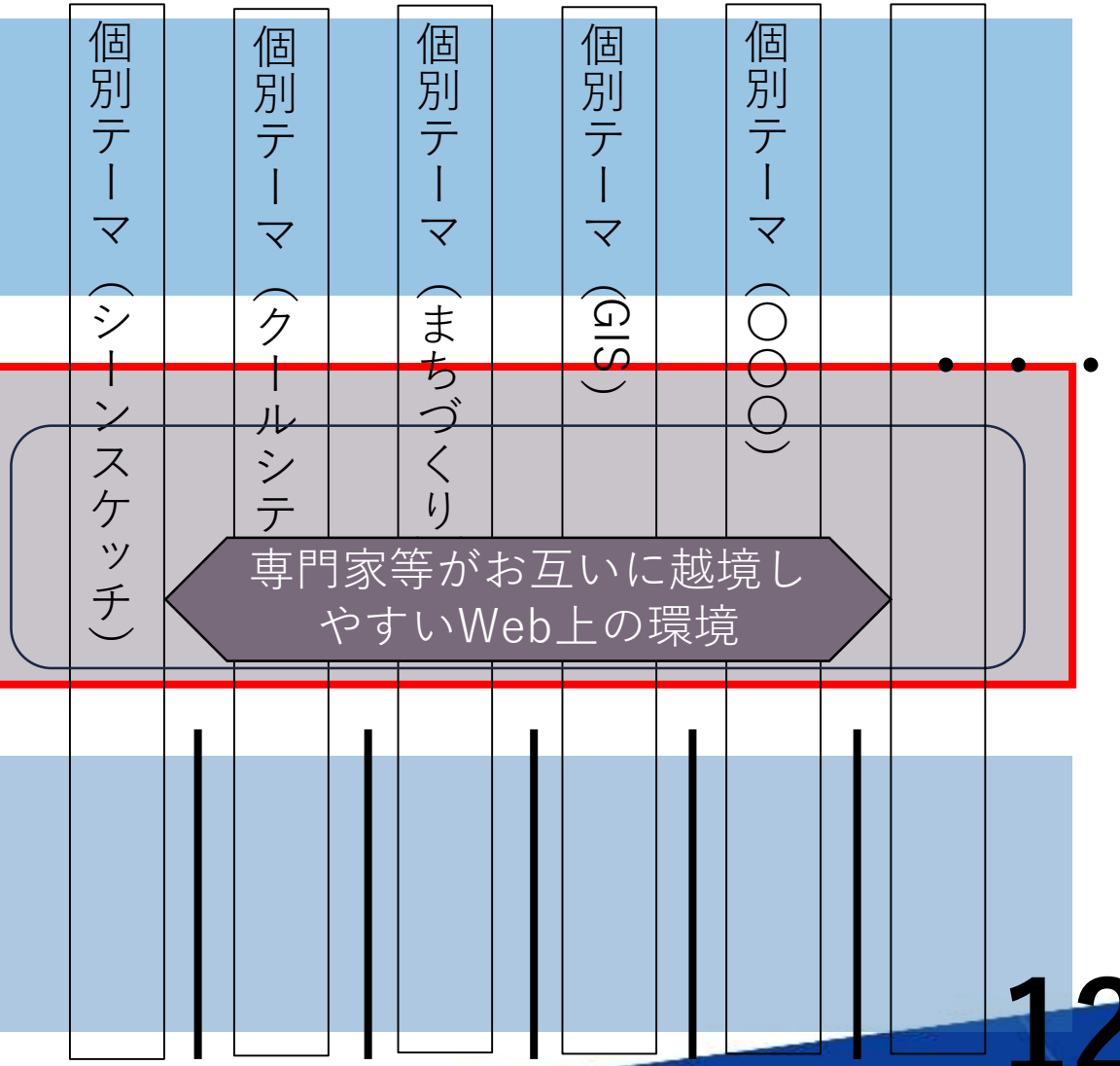
企画・運営階層（B階層）

各テーマの関係者（実名）による共創を重視。

A階層への掲示内容・タイミング等を調整。

業務階層（C階層）

各テーマの間の行き来を抑制して、仕組みの詳細や、予算の執行内容を詰める。



【参考】クラウドラボへの市役所職員参加に係る留意点（全庁共有事項）

１．クラウドラボへの参加について

　熊谷スマートシティの一環として公民連携により運営される熊谷コミュニティラボのクラウドラボ（スラック）について、以下①②の目的のために業務上直接担当する以外のチャンネルの閲覧、質問等の書き込み、そのための登録を可能とする。

①　「熊谷スマートシティ宣言」、「熊谷市ＤＸ推進計画」に記載するスマートシティに関する取組み、その他の計画に定められた取組みを庁内連携・公民連携の下で、各システムやデータを有効に連携させつつ進める。

②　「熊谷市デジタル人材育成確保に関する基本方針」及び「熊谷スマートシティスキルカタログ」の実践に必要な知見を得る。

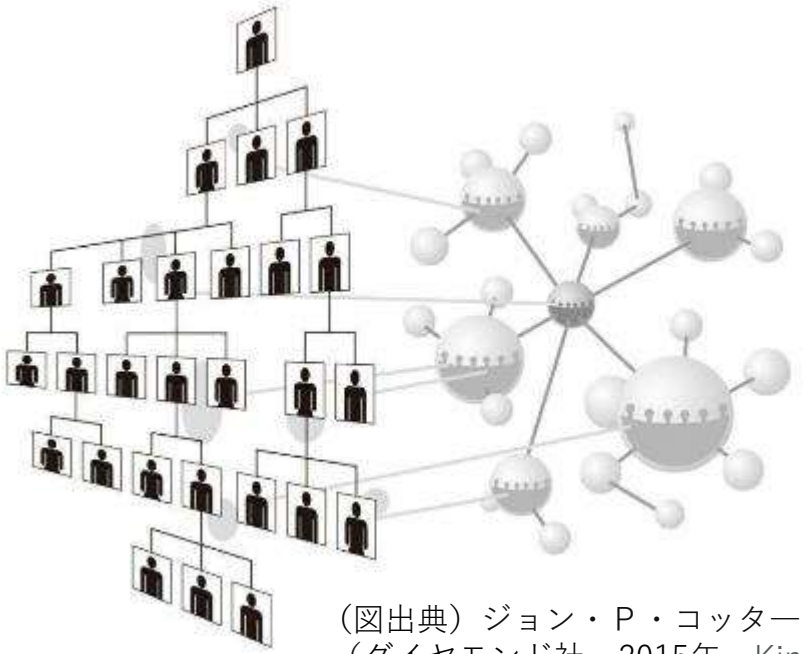
２．クラウドラボへの記入に係る情報管理・責任範囲について

（１）職員によるクラウドラボへの書き込みについては、個人情報、予算に係る情報、その他「熊谷市情報セキュリティポリシー」により適切な管理が求められる内容について必要な管理を行うものとする。
（２）職員が記入した情報は「市役所組織を代表するものではない」取扱いとする。（クラウドラボを始めとする各Webコモンスペース（注）の前提として各資料等において明示する。）
（３）クラウドラボ上の応答のみでは市役所組織としての公式の回答、意思表明とならないことを前提に、必要に応じて、市役所Webサイトへの資料等の公開、電子メールでの応答などの別の手段による対応を適切に行う。
（４）併せて、「熊谷コミュニティラボ利用ガイドライン」に留意し、他の参加者への敬意と誠意をもって対応する。
（５）なお、上記（４）に留意しつつ、（２）（３）の主旨に関して説明の上でも「クラウドラボ上では対応しかねる」ことに応じていただけない場合には、庁内とりまとめ課に連絡のこと。（共同運営主体と対応を検討する。）

（注）「Webコモンスペース」は熊谷スマートシティ推進協議会データ活用部会において、熊谷スマートシティのシステム改善やデータ活用、その他公民連携のまちづくり等に市民等の参画を促すためのWeb上の意見交換の場として用いられた造語。

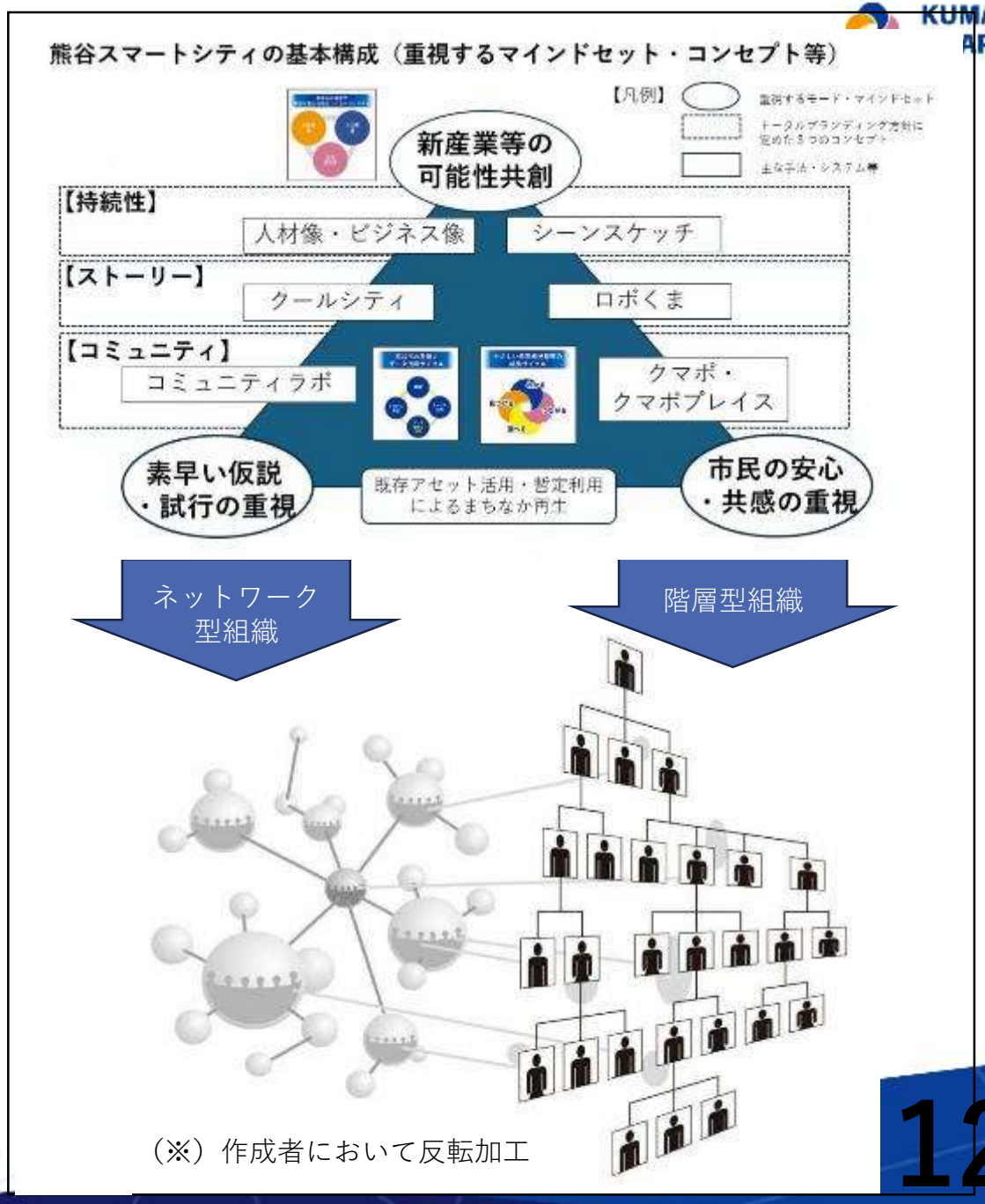
（参考）変化に対応するデュアルシステム

既存の階層型組織と共存させつつ、ニーズの変化などにネットワーク型の組織で機敏にに対応することを想定。



（図出典）ジョン・P・コッター　実行する組織
（ダイヤモンド社・2015年・Kindle版）

（注）市役所においては、法令に基づく業務などを適切に処理する必要があるため、階層型を維持する必要があり、２つの型の組織を並存させる「デュアルシステム」の考え方を採用している。



（※）作成者において反転加工

質疑応答

KUMAGAYA SMARTCITY

閉会

KUMAGAYA SMARTCITY